

インターカルチャー

INTERCULTURE

NO.81

2002年5月号

MAY



学校法人 千里国際学園 Senri International School Foundation (SISF)

千里国際学園中等部・高等部 Senri International School (SIS) 併設 大阪インターナショナルスクール Osaka International School (OIS)
〒562-0032 箕面市小野原西4丁目4番16号 TEL 0727-27-5050 FAX 0727-27-5055 URL <http://www.senri.ed.jp>

第9回卒業式 第12回入学式

大学等合格状況報告

2001年度高2 ベトナム学年旅行

International High School Honor Band に参加

40日間の海外派遣プログラムに入選



4/3入学式より

She is mine.

大迫弘和
SIS 校長

ある日の午後のこと、校長室の前の廊下にちょうど歩き始めたばかりくらいの子供が、一人でべたっとお座りをしていた。手に小さなお人形を持って。

(あれ、おかあさん、どうしたのかな?)

できるだけ優しい笑顔で声をかけた。

"Where is your mum?"

しまった!

金色の髪の女の子の碧色の目に、さっと不安の表情が走った。一人ぼっちでいるときに、黒い髪の黒い眼の東洋人の男に話しかけられるなんて、彼女にとっては人生最大のピンチだ!

いけない、なんとかしなくては。

「お名前、なんていうのかなあ?」

優しく優しく、できるだけ優しく。

しかし、事態は更に悪化。女の子の目に涙がたまり始めた。

かつて英国で暮らしていたとき、その生活の初めのころ、当時4歳だった娘はイギリス人のお客さんがいると、母親の後ろに隠れ母のスカートのすそを握り締めていたものだった。外国人に話しかけられるということが小さな子供に与える不安。

大丈夫、心配しないでね、そう話しかけ始めようとしたとき、OISの保護者でいらっしやる長身のお母様が、小走りにやってこられた。そして軽く微笑まれながらこう言われた。

"She is mine. Thank you very much, Mr. Osako."

女の子は、両手をママに向かって差し出しながら"Mummy!"と大きな喜びの声で叫ぶ。そして待っていたママの胸に抱かれた。

僕の中にひとつの表現がいつまでも消えずにある。

She is mine.

僕は英語の学習を通学した横浜の公立中学で始めたので、昔はそれしかなかったというような、ごくごく普通の

極めて日本的と思われる英語教育(SISで行われている英語教育とは全く異なるもの)を受けてきた。だから、はい、一人称の格の変化は「I, my, me」それに所有代名詞のmineを加えて「I, my, me, mine」ですよ、暗記しましょう、といった具合で、英語を覚えてきた。僕はこれまで心の中で何回「I, my, me, mine」と繰り返したか、その数はもはや数えることはできないだろう。

そして、これまで数え切れなくらい叫び続けたmineという単語が、これほどまで、深く、僕の心に刻まれたことはなかった。なんとはいいいのだろう、はっとした、と言うこともできるし、ずしーんと心に響いた、と言うこともできる。しかし、もっとも単純な言い方をするなら、僕は、感動をしたのだ。

詩人吉野弘は「I was born」という英語の表現に出会うことにより一編の美しい散文詩「I was born」を書いた。『確か英語を習い始めて間もない頃だ。』で始まる「I was born」という詩は、受身形で与えられた生を、しっかりと自分の生として主体的に引き受けていかなければならぬ、そのような生の根源的意味を、生誕の神秘を通奏低音にしつつ詩の言葉で私たちに伝える現代詩の傑作のひとつであるが、その詩のきっかけは、「I was born」が「受身形」であるという『文法上の単純な発見』にあった。

僕は、今、吉野弘のように、詩の言葉で、僕の感動を書き記すことはできない。しかし、とても単純な英語の表現に出会い、生に関するある本質に気づかされた、という意味で、吉野弘の『発見』と、同質のなにかを感じている。

"She is mine."

そうはっきりと言えるのはだれか。

答えは明らかであろう。

私たちは母親のおなかの中で羊水にぼちゃぼちゃとつからせてもらっていたわけだが、母親にとっては、詩「I was born」の言葉を使うならば

『ほっそりとした母の胸の肉で 息苦しくふさいでいた白い僕の肉体』というように、自己の存在の全体を埋め尽くしたものとしてみれば、わが子は胎内にあるのだから。そのような者だけが、所有代名詞「mine」を、使える。

父親はどうだろう。「She is mine.」と言えるとは思うのだが、母親がそう言うのとは、微妙な差があるような気がする。みなさんはどう思われるだろう。

日々、子供たちと共にある先生という仕事にある者はどうだろう。分かりきったことだが、子供たちは先生の所有物であるはずはない。生徒と教師の関係において一番基本にあるのは、一人の人間と一人の人間としての一対一のtieの関係だ。授ける者 学ぶ者の関係も、その基本的関係の上に成り立っていないなければならない。

『ひと・どうぶつ 行動観察じてん』という日本タヌキ学会会長である動物学者、池田啓氏の絵本を読んだ。人と動物の行動形態の様々な一致を面白おかしく描く。その最後のページは、これも人も動物も同じということで『おかあさん、おとうさん、ここまでそだててくれてありがとう。いもうとよ、おにいちゃんはどういうふうぞ、さらばじゃ!!』という風になっている。動物の場合は「分散(dispersal)」というそうだ。人の場合は、ひとり立ち、独立、旅立ち、巣立ち、自立、親離れ、etc.

いろいろな言葉が浮かぶが、いずれにせよ、「mine」であった子が、いつかは、一人で歩み始める。

親にとって大切なのはmineがいつかはdispersalするというのをしっかりと認識しておくこと、mineがいつかはmineでなくなるということをしっかりと認識しておくこと。そして、子は、一人で生き始める日が来ても、かつて自分が大切な人の「mine」であったということを忘れてはならない。

第9期生 (Class of 2002) 卒業式

高等部第9回卒業式が、3月9日(土)に本学園の体育館にて挙行されました。好天に恵まれ、春の訪れが感じられるあたたかい日差しを受けて80名の卒業生の皆さんがSISを巣立っていかれました。

卒業証書が授与される時には、80名の卒業生の一人一人がそれぞれ選んだ自分だけのBGMが流されました。クラシックあり、ポップスにハードロック、レゲエもあれば六甲おろしまで流れてくるというユニークなもので、選曲をした人の個性や卒業していくにあたっての気持ちがよく表れていたと思います。

ご多忙のなか、小林公平理事長・学園長、福田國彌副理事長による心温まる祝辞をいただき、それに続き大迫校長、そしてOIS中高等部部長のサール先生が、卒業生たちへの熱いメッセージを送られました。

大迫校長による、“かけがえのない自分を大切に”ということばは巣立っていく卒業生の皆さんの胸にあらためてしっかり刻まれたことと思います。

在校生代表の井上咲姫さんと森坂綾乃さんによる送辞のなかで朗読された詩はとても美しいものでした。答辞は2種類で、ひとつは林奈緒美さんと金季実さんのふたりによる6年間の思い出をたっぷり含んだ心に染み入るものでした。今年韓国と日本で開催されるサッカーのワールドカップに先駆けて...ということばが示すように振袖とチマチョゴリを着て壇上に立つ二人の姿はとてもはなやかで輝かしかったです。もうひとつの答辞は太田竜太郎君によるもので、彼の正直な熱い思いをかたる答辞は、参列者のみなに笑顔と涙を誘うものでした。

ボネット先生の指揮によるHSストリングスの演奏Beauty and the Beast (卒業生のリクエスト曲)の流れるなか堂々とした表情で80人の卒業生が退場し、中身の濃い、和やかな卒業式が終了しました。



2001年度大学等合格状況

2002年 4月 10日現在

進路情報室

2001年度卒業生徒数80名 + 過年度生徒数19名 (含在大学しながら別の大学/留学試験を受験) = 計99名

学校名	合格者数		学校名	合格者数	
	現役	卒業		現役	卒業
国公立大学他			私立大学-つづき		
大阪外国語大学	2	[1]	国際基督教大学	1	
筑波大学	2		神戸学院大学	1	
京都市立芸術大学	1		神戸親和女子大学	1	
京都大学	1		早稲田大学	1	
信州大学	1		大阪電気通信大学	1	
神戸市外国語大学	1		同志社大学	1	
防衛大学校	1		武庫川女子大学	1	
鹿児島大学	1		大手前大学		1
京都工芸繊維大学		1	京都精華大学		1
九州芸術工科大学		1	成安造形大学		1
埼玉大学		1	聖和大学		1
私立大学			追手門学院大学		1
立命館大学	16	(2) 2	東京農業大学		1
上智大学	10		東京理科大学		1
関西大学	8	(3) 2	日本大学		1
京都外国語大学	9		北里大学		1
関西学院大学	5	3	私立短期大学		
関西外国語大学	7		大阪信愛女学院短期大学	1	
同志社女子大学	5	1	白鳳女子短期大学	1	
龍谷大学	4	(1)	専門学校		
神戸女学院大学	3	(2) 1	なし		
慶應義塾大学	2	2	海外の大学他		
近畿大学	1	3	Temple Univ. (日本・米)	3	
甲南大学	2	1	The College of William and Mary (米)	1	
甲南女子大学	2		Univ. of San Francisco(米)	1	
青山学院大学	2		ペルージャ大学(伊)	1	
宝塚造形芸術大学	2		ペローナ・ダッラアバコ音楽院(伊)	1	
明治大学	2		...他結果待ち...		
酪農学園大学		2	就職-その他		
中央大学	1	(1) 1	なし		
立命館アジア太平洋大学	1	(1)			
関西国際大学	1				
京都女子大学	1				
高知工科大学	1				

注意 ・ 過年度生徒分で、不明・無回答も若干あり。
 ・ 数字は、全てのべ人数。
 ・ 内 () 名は、指定校推薦入試合格生徒数。
 ・ 内 [] 名は、夜間主コース合格生徒数。

7ヶ国語で宣誓

第十二回入学式

今年の春は桜の開花が早く、入学式までもつかと心配されましたが、桜がまさに満開であった4月3日(水)、好天に恵まれて第12回目の入学式が挙行されました。華やかなバンド演奏と大きな拍手に包まれて中等部1年生(7年生)の新入生53名、高等部1年生(10年生)の入学生78名(内部進学者58名含む)、そして編入生7名の計138名が、温かく迎えられました。

恒例の生徒宣誓、今年は7ヶ国語で行われ、福井麻衣さん(7年、日本語)、クナーリサさん(7年、英語)、梁太紀君(7年、朝鮮語)、中元美里さん(7年、ドイツ語)、村井仁美さん(10年、タイ語)、辻健三君(10年、中国語)、辻明日香さん(10年、インドネシア語)の7人が、堂々とそれぞれの言語で世界人権宣言の精神に基づいた生徒宣誓を行いました。



中等部卒業式

3月12日(火)に中等部の卒業式がシアターで行われました。簡潔ななかにもほのぼのとしたアットホームなあたたかさのあるよい卒業式でした。

ほとんどの人が高等部への内部進学をするなか、家庭の事情で九州のInternational Schoolへいくことになった椿舞綾さんへ暖かい励ましの拍手が送られました。

菅野雄太君によるソロピアノ演奏、杉原末里子さんによる独唱「マイフレンド」が、さらに卒業の気分を感動的に盛り上げてくれました。

ベトナム ホーチミンでの5日間

2001年度高2学年旅行

委員長より

秦 裕徳

高等部3年

私たちは修学旅行で3月14日から18日までベトナムの南部にあるホーチミンに四泊五日でいってきました。参加者は64人で引率の先生が6人と旅行社の方が2人の合計72人です。初日は午前11時くらいの飛行機で四時間くらいかけて向こうの空港に着いたのが夕方4時くらいで、ホーチミン市内を軽くバスの窓から見学しながらホテルに行きました。ベトナムに着いての第一印象は「暑い」という言葉以外に思いつきませんでした。飛行機から降りた瞬間に30度以上の風が…。そして何よりもビックリしたのがモーターバイクの多さ。これは行ったみんなも思ったことだと思います。バスから外を覗いて見るとバイクバイクバイク…。ビックリのあまり「どこ行くんですか？」と日本語で話しかける（叫んでる？）友人の姿もありました。と、このような感じでベトナム旅行の初日は幕を閉じたのですが、二日目、三日目、四日目に関しては、プログラムごとに行動したので各担当者から説明してもらいます。五日目は四日目の晩に飛行機に乗って翌朝六時過ぎに到着し解散するだけでした。この五日間は参加した人それぞれにそれぞれの思い出ができ、それぞれが色々な事を勉強して、それぞれが色々な人と交流してすごく充実した旅行になったと思います。

計画の段階で色々ともめごとがあり、保護者の方からの鋭い指摘なども受けて完成したこの修学旅行に対して参加した皆は行って良かったと感じ、旅行委員も一年かけて計画した甲斐があったと感じていると思います。最後にこの旅行を実現させて下さった保護者の方々、旅行の担当を引き受けて下さった新見先生と他5人の先生方、色々現地と連絡を取ってくれた阪急交通社の方々や他にもいろいろこの旅行に携わってくれた方々、ホームページを作ってくれた横山君、どうも



ありがとうございました。おかげでも楽しい旅行になりました。com on ahn

副委員長より

角田 瞳

高等部3年

私とこのベトナムの修学旅行との関わりは1年前の3月にさかのぼります。それがいつのまにか副委員長という、学年の人たちはもちろん、委員会そのものをひっぱっていく立場になりました。どこまでを旅行委員の範囲として旅行をつくれればいいのか？旅行委員以外の人たちのアイデアを引き出しどんどん旅行づくりに「参加」してもらうにはどうしたらいいのか？また旅行委員会の進め方や組織づくり、役割分担など委員会の運営にもずいぶん悩みました。やめたいと思ったことは数知れず、一度などやめると宣言したこともありました。自分の能力や素質(?)のなさに嫌気がさし、他の人に腹を立て、自分はなんて無力なんだろうとつくづく情けなくなった時期もありました。それでも少しずつ旅行委員会の中から動きがおき始め、そのうちその動きが委員以外の人たちをも巻き込むようになってきたことはとても嬉

しいことでした。あれもしたい、これもしたい。私の学年から生まれたこの修学旅行は、つぎはぎだらけだったかもしれないけれど、私たちの思いがいついつまったものになりました。けれどベトナムにいるとき私は心のどこかで違和感を抱えていました。何かが違う…。これがこれまで1年かけて目指してきたゴールだったのか？これが私の期待していた旅行なのか？そしてそのときふっと気がついたことがあります。確かに旅行という最終目的を果たすためにこれまでにやってきたのだし、当然のことながら旅行そのものは終着点には違いありません。けれど私にとっては、ベトナムでの4日間よりもそこに行き着くまでの委員会のあゆみがもっともっと重要だったのだと。そして旅行当日はこれまでの1年間分の素敵な「おまけ」だと思ふようになりました。そう考えるとなんだかこの旅行のどの部分もすべてがとても大切なもののように思えてきて不思議でした。また同時にベトナムは私にとって初めて訪れる(日本以外の)アジアであり、この旅行が、「アジアの一員としての自分」がアジアと関わっていく始めの一歩になれば、と思っています。

書記より
津高絵美
高等部3年

私達の旅行先がベトナムに決まった時点ではまだ誰もベトナムについて語れやしなかった。何度も調べても、本当にベトナムのイメージがつかめたのかは疑問だった。今から考えてみれば、ベトナムに足を踏み入れて初めてベトナムが解ったように思う。委員会の中で大変な作業だったベトナムが、大好きな存在へと変わった。その経過を紹介したい。

まず、最初に乗ったバスから見えた風景が衝撃的だった。クラクションとバイクの波が私達のバスを、上手いことすり抜けるのだ。私はその波に圧倒された。バイクには私より若そうな人も乗っている。長い座席に改造したものは5人の親子で乗っていた。「みんな頑張っているんだ！」私は漠然と思った。

ベトナム戦争プログラムでは、戦争証跡博物館へ行った。私達で企画した「戦争体験者の話を聞く会」には3人もの体験者の方々とドクさんが参加してくださり、歓迎してくれた。私は感激した。なぜなら離れた2つの国の人がお互いをRespectしながらここにいるのだ。内心、話を聞くだけでなになるのか？と思っていた私は、話を聞き、感じることで、実現が難しい「平和」を実現する鍵を得たと思う。

学校交流プログラムでも大歓迎を受けた。住所の交換をしたり、文化の事からプライベートな事まで話したりと、楽しい時間を過ごした。このプログラムは、ベトナムの文化を知る良いきっかけとなった。そして、自分の世界が文字通り広がり、見知らぬ環境でもなんとかやっていける自信がついた

と思う。

その後の買い物時間に私はショックを受けた。妹と同じ10歳位の少年がココナッツを買って！と売りに来たのだ。よく聞く話かもしれないが、間近で見るとかわいそうという感情しかなくなる。この感情が貧困撲滅活動へのエネルギーとなるのだと同時に、貧しい中でも頑張っている少年達から元気ももらったと思う。自分も頑張らねばと。

メコン川クルーズでは、美しい自然に触れた。その一方で、多くの工場をも目にした。発展の方法として容易なのは分かるが、残念だ。一方で「先進」国として、先進国が他の方法を示す必要性も感じた。

こうして私は、色々と考えさせてくれ、多くの出会いをくれたベトナムが好きになった。本当に元気ももらったと思う。旅行者だから楽しいと思えたのかもしれないが、その中でも感じた事を忘れずに大切に、これからもふくらませて行きたい。

ベトナム戦争担当より

伊藤 愛
高等部3年

ベトナム戦争をより詳しく知る。それがこのプログラムの目的です。ベトナムの将来を大きく変えた、ベトナムを知る上では無視することの出来ない、戦争という名の民族独立運動。ベトナムの地でベトナム戦争を知るために選んだ場所は、クチトンネルと戦争証跡博物館です。

クチトンネルは、ベトナム戦争当時、南ベトナム解放戦線が拠点を置いていたクチという町にあるトンネルで、地下の要塞として使われていました。今も当時のまま残されており、「戦争」という状況を知るには良い

場所です。トンネルは地下三階構造になっていて、全長はとても長く、細く、まっすぐな所がありません。トンネルが細いのはアメリカ兵が入って来られないように、蛇行しているのはトンネルの構造が分かりにくいためののだそうです。私達もトンネルの中に入りましたが、トンネルはしゃがまなければ頭を

打ってしまうほど狭く、また明かりがあるのととても暗くて、怖くてトンネルに入れなかった人もいた程です。戦争当時は明かりもなく、文字通り真っ暗な中で生活していたのだそうです。地上を歩いていても、あちこちにB-52の爆撃跡があったり、トンネルの秘密の入り口があったりしました。

戦争証跡博物館では、ベトナム戦争関連の展示物を見るとともに、戦争証跡博物館の館長さん、政治犯として服役した経験のあるフォンさんとルオンさん、枯葉剤の被害を受けたドクさんの4人からお話を伺いました。館長さんは大まかなベトナム戦争の話を、フォンさんとルオンさんは、戦争当時のフランスやアメリカに対する抵抗運動や投獄された経験について、またドクさんは兄のベトさんとの生活や将来のことについて話して下さいました。「自分もみんなも大変だったけど、ベトナム民族は独立できた」と言ったフォンさん。「フランスやアメリカはベトナム人の心からの愛国心に負けた」と言ったルオンさん。ベトナム戦争は、その思いを貫くための戦争であったのかもしれませんが。

市内観光担当より

末吉なつ香
高等部3年

市内観光は生徒7人、先生2人、旅行社の国方さん、計10人の最少人数のプログラムとなりました。人数が少ない分、プログラム内容を定める段階から自分達の意見を通しやすく、より一人一人の希望に沿ったものになったのではないかと思います。まず私達が行った所は、南ベトナム政権時代の旧大統領官邸である『統一会堂』です。現在は一般公開されていて、当時の大統領のゴージャスな生活ぶりがかげえる豪華な部屋や、美術品が数多く展示されていました。次の歴史博物館に行く前には、『聖母マリア教会』で記念撮影できました。とても大きな教会で、内装のきれいさに驚きました。そして『歴史博物館』。ここではベトナムの古代から現代までの仏像や食器等の骨董品が多く展示され、中には日本や中国その他アジアから伝わった物もあり、アジアのつながりを感じる事が





できました。次に向かった先は『ビンタイ市場』です。広い敷地ではあったのですが、店と商品が所狭しとひしめきあい、通路は一人一人が通れるスペースしかありませんでした。ベントイン市場と違い、観光客向けでなく現地の人の市場なので、観光客だからといって店員の愛想が良くなるわけでもなく、値段はベントイン市場より少し安いようです。市場を後にした私達は昼食をとり、その後『ドンコイ通り&レロイ通り散策』の開始です。通りには靴屋、雑貨屋、服屋、喫茶店など色々な店が建ち並び、道には多くの物売りの人達がいました。店員の多くが日本語を少し話せて、日本人観光客の多さを感じました。この後はベトナム戦争プログラムメンバーと合流して戦争証跡博物館の見学をしたので、ここで10人の市内観光は終わりです。市内という限られた場所ではあったけれど、今日一日で色々な所めぐり、多くのことを学ぶ事ができ、本当に良かったです。

学校交流担当より

横川 梓
高等部3年

世界の高校生は一体どんなことを考えているのかな？これは私にとってものすごく興味があることでした。異なった環境の中で育ち、異なった教育を受けてきた彼らは、日本の高校生についてどう思っているのだろうか？今回、学校交流の担当を引き受けたのもそんな疑問が自分の中にあったからです。

3月16日木曜日、私たち「学校交流」のメンバーは、冷房が効かないバ

スにゆられて、ホテルから凸凹道を10分ほど、市内にあるTruong Vinh Ky Private Highschoolに到着しました。この学校は中・高合わせて約1000人が通う、ホーチミン市内でもかなり裕福な学校として知られています。ごく最近設立され、5階建てのとてもよく設備が整っている

校舎です。バスを降りるとすぐ、アオザイを着た生徒たちが私達を快く出迎えてくれました。

私達は大きな部屋に案内され、そこでお互いのプレゼンテーションの場をもちました。私達はプレゼンの中で日本の文化、千里国際学園、日本で流行しているものの説明、何人かの生徒たちによる歌の発表、そして日本の民話「かぐや姫」を披露しました。全員が集まる機会が事前にあまりなかったため、プレゼンがスムーズに進まなかった場面もあったけど、私なりにプレゼンは成功したと思います！また、現地の高校生は民謡、アオザイファッションショーやベトナムの伝統的な結婚式を披露してくれたり、とても興味深い内容のプレゼンがありました。最初はお互い緊張していて、なかなか声をかけられないでいたけど、時間が経つにつれて皆身振り手振りでも会話をするようになりました。

午後からは現地の高校生と一緒に学校の近くにあるDam Sen Parkという公園に遊びに行きました。この公園には遊園地、動物園や植物園があって、ベトナムでは最新のアミューズメント・パークと言われているそうです。一緒にボートに乗ったり、アイスクリームを食べたり、なぜか日本ではごく普通のこと、ここではとても特別に感じられました。最後に別れるときも寂しかったです。やっとお互いのことを知り合えたばかりなのに、心の中でもう二度と会えないんじゃないかなと思いつつ「See you soon!」と手を振るのはとても辛かったです。

学校交流を担当して一番大変だったのは現地の学校と事前に上手く連絡が

取れなかったことです。言葉がなかなか通じないために、電話で簡単な英単語を並べ自分の言いたいことを相手に伝えるのには本当に苦労しました。また、事前のミーティングで「言葉が通じ合わないから長い時間現地の生徒といてもおもしろくない」という声もあったのですが、今回の経験を通して私が思ったことは、「交流」は言語が全てじゃないということです。言葉が通じ合わなくても、一緒に時間を過ごしているだけでお互いをもっと理解したいという気持ちが大きくなりました。ベトナムの女の子が日本人の男の子を見てはしゃいでいる姿は、私たちと変わりなく(笑)、国籍を問わず同世代に共通するのを感じました。また、今回の交流で遠い存在だったベトナムを身近に感じることもできるようになりました。

最後に、私たちの交流を支えていただいた秘書のAnh Tuyetさんに感謝します。そしてAt last but not leastこのプログラムに参加してくれたみんな本当にCa'm o`n!!!

カオダイ教担当より
柴田昌洋
高等部3年

SISの人間で国際理解を語れないヤツはスパイだ、とはよく申しますが、先生を含め我々14人の中にほとぼる好奇心以外の理由でこのカオダイ教プログラムを選んだ人は果たしているのでしょうか。あるいは別の高尚な想念を持っていらっしゃった方もおられたかもしれませんが私はもちろん前者です。そしてベトナム人の八割は仏教徒です。

カオダイ教は1900年初頭に生まれた新宗教で、最大の特徴はその教えが仏教、儒教、道教(中国の民間信仰)、そしてキリスト教とイスラム教を混ぜてできていることです。これに興味を抱かずにいられますか。

さて、学校交流のメンバーより一足早く集結した我々が意気揚々とバスに乗り込み、期待に身を震わせながらすぐさま眠り込んだのは言うまでもありません。

しかし三時間後たどりついた我々を待つ物は期待を裏切りませんでした。



黄色い寺院の多数の窓は何と全て「眼」なのです！蓮の上にたたくむ眼、眼、眼。寺院の中に入り、緑の籠が巻きつく柱を見上げてみれば、天井には青空と輝く星が描かれています。奥に目をやれば御本尊が見えます。九匹の銀の籠にまたがる大きな球体、いやこの眼こそが我々を宇宙から見守る天眼様なのです！白い服を着た僧侶の御説明を聞きながら私の感動はひとかたならぬものでした。そして次に見学した礼拝の、中村先生曰く「癒し系」の祈祷の歌はなかなか心地よく、たくさん信者さんの中に神秘的な雰囲気であって流れていました。

その後、未だ興奮の冷めやらぬ我々が帰りのバスの中で即座に眠り込んだのは勿論言うまでもないでしょう。

このような素晴らしい旅行ができ、関係者各位には感謝の言葉もあります。本当にありがとうございました。

メコン川担当より
加藤千尋 & 堀 桃子
高等部3年

私達の最後のベトナムのプログラムは、学年全体で投票して一番人気であったメコン川クルーズでした。ホーチミン市から2時間離れたところにあるミトーというところまで行き、船を乗り継いでタイソン島まで行きました。そのタイソン島に行くまでの船で（20分ぐらいだったかな？）ココナッツジュースを一人ずつ配られました。ココナッツジュースはあまり好評ではありませんでした。その場でそのココナッツジュースを割ってもらい、ココナッツの果肉の部分を食べさせていただきましたが、果肉の部分の方が数倍

試食させていただきました。その後、ココナッツキャンディー工場（唯一みんなで行ったお土産屋さんだったよね？）に行き、ココナッツキャンディーの出来立てほやほやをいただきました。それから、また、ハチミツティーの試飲をしました。そこで出して戴いた、乾燥ココナッツ、バナナは一言では表せないほどの美味でした。それから、何ヶ所も試食させていただいた後は、おまたせ〜〜！4人用の船に乗りました。これがメインだったのですが、私が思っていたよりも、とても乗っている時間が短く（興奮していたせいか？）感じられました。ムツゴロウを見た！と言う人もいました。ほんとに安らぐ一時だった気がするのですが、みなさんはどうですか？？？それから、またタイソン島に来る時にのった舟でミトーまで帰り、食事を取りました。ベトナム料理である、おもちを油であげて大きく丸く膨らんだものを食べました。占い師が持つてる水晶玉みたいな大きさの揚げもちで、私はベトナムにせっかく来たのだから「絶対それを食べて帰りたい！」と思っていたものでした。トカゲみたいなものが屋根からふってくるというハプニングもありましたが、今となれば良い思い出でしょう。みんなトカゲが落ちてきた時、思いっきり叫んでたよな。めっちゃおもしろかったで！唯一、学年全員で行動できるというのがねらいのプログラムであったのにもかかわらず、みんなで行動を共に出来ないようなプログラムを計画してしまって、本当にごめんください。I hope you had fun!

2日目と3日目のとてもハードで

おいしかったです。島に渡ってからは、さすが未来の観光スポット？？？っていう印象を受けました。観光スポットっていうよりも、むしろ公園でした。しかし、そこには果樹園があり、マンゴー、モンキーバナナ、パイナップル、パパイヤなど色々な果物を

あったスケジュールに対し、とてもリラックスのできる良いプログラムであった気がします。

さよならパーティー担当より
実藤可奈 & 荒木美帆
高等部3年

ベトナムでの最後の夜は船を貸し切ってパーティーをしました。女の子は前日のショッピングで買ったベトナムの民族衣装、アオザイを着てベトナム美女に大変身しました。密かにセクシーなこのアオザイでドレスアップした女の子達、男の子達はとても嬉しかったと思います。パーティーは短い時間でしたが食事をしたり、歌やダンスのパフォーマンスを見たりして楽しい一時が過ごせました。なかでも金太浩君、畑明広君、福地一樹君の歌と踊りによるらいおんハートは1番の盛り上がりを見せました。ミス・ミスターコンテストやアオザイコンテストも行い、投票の結果、ミスターには西山耕平君、ミスには津高絵美さん、そしてミスアオザイには横川梓さんが選ばれました。パーティーのあとはそのまま帰りの空港へ向かう事になっていたの、名残惜しさを残しながらもパーティーを終え、楽しかったベトナムの旅は幕を閉じました。

International High School Honor Band に参加

徳嶺 絢子
高等部2年

もうすぐあれから1ヶ月、春休み1日目の3月14日から3月16日まで、Mr. Maroccoと私とtubaを吹く川喜田君は、The American School Of The Hagueで今年も開催されたThe International High School Honor Band And Choir Festival に参加してきました。私はclarinetを吹きます。

このfestival は世界中のAmerican SchoolやInternational school 在学中の生徒が対象で、毎年世界各地で開催されています。私は去年もBerlinで行われたこのmusic festivalに参加したわけですが、このfestival に参加するには・・・まず、秋頃にオーディション課題曲が送られてきます。Scaleをいくつかメトロノームにあわせて、それとちょっとした曲をテープに吹き込みます。そのテープをイギリスのAMIS本部に送って、審査結果を待ちます。合格だったら、このfestivalで吹くべく曲(毎年5曲のようです。その内の一曲はChoirとの合奏です。)の楽譜が送られてきます。楽譜をもらってからfestivalまでは、時間的に余裕があります。ここできっちり譜読みをして、事前準備(心の準備もです。これが一番大事だと思います。)をしておけば、大丈夫です。ぱっと見て難しく見える楽譜でも、難しい箇所を避けずに特に念入りに練習するつもりで、一つ一つの音を拾って行けばその練習は実を結ぶでしょう。私はいつもCDを入手して、あらかじめ曲のテンポをできるようにしています。そうすれば、いざ吹いた時に、テンポが速くて焦ったりもしません。

こうしてオランダに渡り、私はオーディションでfirst chairに選んでいただけました。ここで「私はなんとfirst chairに選ばれたのです！」と書かなかったのは、ある程度その結果を想像してオランダに行ったからです。自信過剰風な発言ですが、私は、物事は出来ない出来ないと思っていて出来るわけがないと思います。image trainingを

して、自分を励まします。オランダまでいくんだから、first chairを狙う気持ちで行こう、とっていました。

今年は、去年の様にSISから参加生徒が一人ではなくてよかったです。でも川喜田君には一つ言いたいです。tubaってなんでそんなに大きいのかしら。オランダでタクシーに乗る時も、なぜか後部座席の隅っこに追いやられていたのは私と川喜田君でした。tubaはトラックに入らなかったのも、後部座席のほとんどを占めていました。発車する電車にとびのる時も、あなたはtubaを引きずって苦労していましたね。でも、私も川喜田君も結局それぞれのsectionのfirst chairに選ばれることが出来て、本当に良かったです。私は計22時間のflightで、一つの発見をしました。それはMr. Maroccoがとても親日的な方だと言うことです。いつも日本食を選んでらっしゃいました。それから、Mr. MaroccoにはGreek Food Restaurantにまで連れていってもらって、どんな時にも優しく応援していただきました。

今年はCAからも数人参加している生徒がいて、行き帰りはいっしょでした。私はSport Clubに入っていないので、CAの子としゃべったり接するのは初めてでした。CAの子達のうちの2人はseniorの女の子で、(2人ともかなり可愛いのですが)私のルームメイトでもありました。CAの子達はさわやかで、優しくて、友達思いのいい子ばかりでした。CAはきっといい学校だろうな~というのはすぐに感じられました。その他スイスの公文から来た子達の中には、1年ぶりに会う子や、Honor Orchestra in Viennaに参加していた子などなどがいて、会えてよかった~と思いました。やっぱり単身スイスで勉強しようと決意するだけあって、しっかり者ばかりでなんとも頼もしかったです。

今年のConductorはProfessor Jerry Luckhardtという方で私は大好きでした。心から尊敬しています。始めてお会いした時から、とっても感じのいい方で、私は帰国後しばらく、彼の下で

音楽の勉強がしたいなあと思っってしまったほどです。Luckhardtさんの誉め言葉、「Good leadership」という言葉は一生忘れません。今年のfestivalの練習尽くめのScheduleは全然苦になりませんでした。全然疲れもしなかったのです。去年は大変だ大変だと思っただけで、自分自身去年より強くなったと思います。人との出会いにも恵まれ、first clarinet sectionは円満でした。Second chairのAshleyは私にとってママのような存在でした。Oboeのsolo part担当の男の子と、Fluteのfirst chair、私とで個人練習などもし、楽しくて楽しくて笑いが止まりませんでした。

オランダの観光をできなかったことが、敢えて言うなら残念でしたが、Mr. Maroccoが日本に帰る日に半日(もなかったなあ)タクシーツアーに連れて行ってくれましたし、オランダの人のやさしさは十分感じられました。私がスーツケースを引きずっていると運んでくれたり、スーパーで欲しいチーズが手に届かないと取ってくれたり、とりあえずいつも笑顔で微笑んでくれて、オランダに移住してもいいなあとも思います。オランダの人は、人間だけでなく地球にも優しくって、自転車でいつも行動、電車に乗る時は簡単に折りたたんですぐに読書や会話を楽しんでいました。サッカーの小野伸二くんや、一つ年上のさつきちゃんがオランダはいいところ、って言っていた意味がわかりました。音楽をやっていたおかげで、いろんな出会いがありました。

最後に...さくら先生、いつもいつもありがとうございます。これからもclarinet頑張ります。大迫先生、今年も温かく見送ってくださってありがとうございます。おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、いつも資金面で面倒ばかりかけてごめんなさい。いつもありがとうございます。友香ちゃん、空港に迎えに来てくれてありがとう。その他の人にもたくさんお礼が言いたいです。でもやっぱり、Mr. Marocco, thank you very much!

公文公記念奨学事業 高校生短期海外派遣プログラムに入選

高等部 2年阿部友香さん

財団法人公文国際奨学財団による公文公記念奨学事業高校生短期海外派遣プログラムに参加する生徒の中に本校高等部2年の阿部友香さんが選ばれました。

このプログラムは同財団が渡航費・滞在費等すべての費用を負担するもので、多数の同奨学生の中から、書類審査、英語面接審査等の難関を経て、全国でたった3名が参加できます。

内容は、スイス公文学園の寮に宿泊し、同校に短期留学してくるカナダ、アメリカ等の高校生及び公文学園生徒とともに英語を使用言語として、教科

学習や課外活動を行なうもので、期間は7月初めから8月中頃までの約40日間です。

ご本人からの報告は秋に掲載する予定です。阿部さんの活躍に期待しましょう。



玄関で Jazz コンサート開催

福島浩介
国語科

さる、3月5日火曜日の放課後、玄関にて、2001年度冬学期のJazz class選択者によるライブが行われました。軽快なSwing Jazz、「Swing Fever」にはじまり、レゲエあり、バラードあり、ブルースありの30分ほどの演奏会でしたが、大勢の皆さんに楽しんでいただきました。私もラッパを持って参加しました。アンコールは、音楽監督である蓑輪先生が、このクラスのために書いてくださった『小野原ブルース』で締めくくりました。

Jazz classは、毎年冬学期に開講されていて、学期の最後にライブを行うこ



とを目標に、Jazzの勉強をします。まったくJazzを知らない生徒たちでも、モロッコ先生、蓑輪先生、竹本先生の熱心な指導により一学期の間で「いっばしの」演奏をするようになります。今後もこのクラスが大勢の生徒がJazzに触れる機会を作ることが出来ればよいと思います。

演奏は、校内だけではなく、北千里の公民館などにも出張演奏したことがあります。そして今年なんと、1999年よりゴールデン・ウィーク中に阪急高槻駅を中心に開催されている一大ジャズイベントである、『高槻Jazz Street』(<http://www.0726.com/jazz>)に出演することが決定しました。前回の演奏会を見逃した方、ぜひぜひ足をお運びください。オン・ステージは、**5月6日午後6時から阪急高槻市駅噴水前の会場**です。前回の玄関コンサートよりパワーアップしたメン



バーで、質・量とも25%増量でお送りいたします。よろしくお願ひします。

2001年度冬学期メンバー

音楽監督 蓑輪裕之

S. Sax. 竹本智和 (Faculty)

A. Sax. 松田杏子、石橋ゆりか

T. Sax. 山口綾野

B. Sax. 門 敬子

Tp. 梅谷美智子、Bill Marocco

(Faculty)、福島浩介 (Faculty)

Horn. 竹内祥子

Pf. 田中英生子

Bass. 諸正義彦

Dr. 嶺崎隼人

■ 学年だより

中等部 1 年生

人の話はしっかり聞こう

田中憲三

1組担任、数学科

今年、入学した中学 1 年生 53 名中、半数以上のみなさんはこの学校ではじめて英語を学ぶ人達です。そのようなみなさんにとって、英語で授業が行われている美術や音楽などの時間は、戸惑うことが多いでしょう。このような状況を君たちの先輩の多くは次のようにして克服してきました。それは、たとえ先生が話されている英語がわからなくても、話し手の先生の方をしっかりと向いて、話を聞くのだそうです。そうしていると、言葉以外の情報（話し手の先生の表情や視線、ジェスチャーなど）から先生が何を言おうとされているのかが、なんとなくわかってくるそうです。この「なんとなくわかる」という境地に少しでも速く達するためにも、ぜひ先輩のアドバイスを参考にしてください。

私は数学の授業を担当しています。納得できるところはうなずきながら、逆に納得できないところは少し首を横に振ったりしながら、新しい発見をしたときは驚愕のまなざしを向けながら、授業に参加してくれる人がたくさんいるクラスは本当にありがたいです。「ここはもう少しハイレベルな話をしても OK だな。」とか、「ちょっと説明の仕方を変えてみないといけないな。」とか、内容や教え方を確認しながら授業を進める事が出来るからです。いや、もっとはっきりいうと、君たちの反応なしには、授業自体が成り立たないのです。君たちとアイデアのキャッチボールをしながら楽しい授業が展開できたらいいなと思います。

人の話はしっかり聞こう。この言葉をみなさんに贈ります。入学おめでとう。そして、千里国際学園によろしく。

中等部 2 年生

一人一人の取り組みに期待

志垣満理

1組担任、生活科学科

2 名の編入生を迎えて、64 名で新しい学年がスタートしました。担任団は、昨年度と変わらず、加納、Ray、志垣の 3 人で仲良くやって行きたいと思っています。生徒たちは、新しいホームルームのメンバーにすこし緊張している様子で、1 組は、今までに比べると少し静かな朝の SHR の時間が持っています。（静かなくらいが丁度良い？）クラレプ（クラス代表）や図書委員、学園祭の店係りに備品係り等、この時期は色々な係りを決めますが、すんなり立候補で決まり、中 2 になって積極的に役目を果たす気持ちになってきている事が嬉しく、また頼もしく感じました。もうすでに、5 月 25 日の学園祭に向けて動き始めていますが、学年があがって始めての大きな行事。1 年前とはまた違った、一人一人の取り組みを期待したいと思います。

中等部 3 年生

さらなる成長を

馬場博史

1組担任、数学科

中等部 3 年生の担任は、1 組馬場博史（数学）、2 組水口香（英語）、3 組田中守（理科）という新メンバーになりました。どうぞよろしくお願ひします。

さて、中学生になって 2 年を経過し、みんな心身ともに成長してきました。身体的な成長はもちろんですが、心の成長も随所に感じられます。ひとりひとりの個性をお互いが尊重し、見守ろうとする姿勢がだんだんできつつあるように思います。また言葉遣いも良くなっている人が増えているようです。積極的に委員に立候補してくれる人も多くなりました。授業を受ける姿勢も落ち着いてきています。担任として嬉しく思います。

日本の中学校では最上級学年という

ことになりますが、本学園ではハイスクールの仲間入りです（多くのインターナショナルスクールでは 6～8 年生がミドルスクール、9～12 年生がハイスクールとなっています）。4 月から選択科目が多くなり、HR での授業はほとんどなくなりました。環境が変わったところで気分一新、さらに成長してくれることを願っています。本校ではほとんどの人が高校受験なしに進学するので、この利点を生かして、のんびりじっくり学習や思索をし、有意義な学校生活を送って下さい。

P.S. 保護者会の学年活動費から 20999 円を学年に寄付していただきました。大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

高等部 1 年生

SIS 高等部への入学おめでとう

井藤真由美

1組担任、英語科

58 名の内部進学者の人、20 名の新入生、編入生の人、あわせて 78 名の皆さん、SIS 高等部への入学おめでとう。

今年この学年で担任をすることになった、私、井藤と、Avery 先生、福島先生、土佐先生の 4 人は、入学式前日に中等部からの内部進学の皆さんが素晴らしい働きぶりで会場設営をしてくれた日あの日以来、とても楽しい気持ちでこの学年をスタートすることができています。これからみんなというんなことに取り組み、みんなの成長していく過程にどうかかわっていきけるのか、と思うととても楽しみです。

わたしにとって、この学年の中でこれまで授業で接した人はほんの数人だということもあり、基本的には内部進学の人に対しても、新入学編入の人に対しても、同じ、「はじめまして。どうぞよろしく。」の気持ちです。みんなにとっても高等部入学というステップを同時に踏んだのですから「78 人と同じスタート」をした、ということであらためて意識してほしいなと思います。つつい、今までからよく知って

いる人にばかり話しかけてしまう…。
 ついつい同じ時にこの学校に来た人と
 いっしょに行動してしまう…。もちろん
 それは自然なことともいえますが、
 こころは特に意識的にそれを打ち破
 ったコミュニケーション作りをする
 努力をしてくれることを願います。

4月10日、今年最初のLHRの時間には
 中等部の卒業Party委員をしてしてく
 れていたメンバーとAvery先生が企画
 を進めてくれていたG10 Ice-breaking
 Partyが行われました。アセンブリー
 の後の短い時間でしたが、楽しい
 ゲームをしながら学年の人達の顔と
 名前を覚えるよい機会になりました。

さて最後に、新学年がスタートし
 て、私のこの学年の雰囲気に対する第
 一印象ですが、それは、「さわやか」
 の一言です。学年全体に漂う、ふんわり
 春風のようなさわやかなムード。そ
 して、新学期から伝えなければいけ
 ない情報、決めなければいけないこと、
 ボランティアをお願いすること…、そ
 んなことばかりのあわただしい朝の
 SHRを過ごしている中でも、とても
 気持ちよく自分のできる役割は進
 んで果たそうとしてくれる様子や、
 思いやりのあることば掛けや、チ
 ームワークを大切に組み組んでい
 きたいという様子にあふれていて、
 いろんなことがスムーズに、「さわ
 やかに」すすんでいます。このと
 てもいい雰囲気を大切にしながら、
 みんなが卒業後のすすむ道を考
 え始め、大人へのステップを上って
 いくお手伝いがしっかりできればよ
 いと思っています。よろしくね。

高等部2年生
 高校2年生開始!!!
 高橋寿弥

1組担任、数学科

さあ！ 高校2年が始まりました
 ね。今年度は高校生活の中で、一
 色色々な出来事があるかもしれません。
 授業数も1番多いかも…。一方
 では、将来の進路の事も、1年生
 のときよりも、より深く考えてい
 かなければならないでしょう。

何はさておき、今年度のメインイ

ベントは何と言っても学年旅行でし
 ょうね。旅行委員のみんなもよく
 動いてくれているみたいですし、
 私は当面黙ってみていてもよさ
 そうな感じがします。今まで福
 島先生に、うまく委員の生徒たち
 をまとめて頂いていたのですが、
 誠に残念ながら、本学年を離れ
 ざるをえなくなったので、私が、
 それを引き継ぐことになりました。
 基本的には、生徒たちに旅行の
 企画・立案を考えてもらうことに
 しています。彼らがいかにして旅
 行を企画し、いかに学年全員の
 生徒が、ほぼ満足できるように、
 話しを進めていくかを、ワクワク
 しながら見えています。保護者の
 方々もどうか彼ら・彼女らを勇
 気づけてやってください。生徒
 のみんなも、いつも私がよく言
 っているように、「うちの学校だ
 からできること」「うちの学校
 の特性」を大いに活用して下さい。
 全員が旅行の企画に真剣に取り組
 んで、協力していけば、きっと
 素晴らしい旅行を実現できますよ！
 委員でないみんなも発言して、
 大いに貢献していきましょう！

今年も盛りあがった、いい1年
 にしましょうね!!!

高等部3年生
 進路選択の重要な年
 新見真人

1組担任、理科

春休み中に実施されたベトナム
 のホーチミン市周辺への学年研
 修旅行(76名中62名参加)の様
 子については、この号の旅行委
 員会執行部役員と各プログラム
 リーダーからの詳しい報告書を
 お読みいただければ、この旅
 が生徒達にとっていかに実りの
 多く有意義なものであったか
 がお分かりいただけると思いま
 す。しかし、教員の旅行責任
 者の私としては、ベトナムでの
 旅行最終日に体調を崩した生
 徒が幾人も出てしまったことを
 深く反省し、生徒・保護者の
 方々にご心配をおかけしてしま
 ったことを心からお詫びいたし
 ます。帰国後、参加者のみな
 さんが速やかに健康チェック
 の必要性を理解し協力して問
 題解決に当たってくれたこと
 を心強く感じました。池田保
 健所

面支所長江頭先生、山本保健婦
 さん、その他関係の方々には
 大変お世話になりました。大変
 感謝いたしております。

さて、新年度になって3名の仲
 間が加わりました。2組に片岡
 菜生さん(米国)そして4組に
 笠井はるかさん(アルゼンチン)
 と村上玲さん(中国)です。6
 月まで米国留学中の一階翔太
 君(1組)と石田佳奈子さん(3
 組)を含めて各クラスとも20
 名で、3年生の在籍者数がちょ
 うど80名となりました。みな
 さんにとっては進路選択の重
 要な年になりました。進路情報
 室の池田先生さらにカウンセ
 ラーの栗原先生、そしてわれ
 われ4人の担任にとって、み
 なさんの相談に乗ることが今
 年度の最優先の仕事だと心得
 ています。これから担任とみ
 なさんとの個人面談の予定も
 組んでいきます。千里国際学
 園も12年目に入り、伝統らし
 きものも生まれてきています。
 もちろん良き伝統はしっかり
 守りつつ、同時にただの形式
 的になってしまっている事柄
 については積極的に打破して
 いかなければならないように
 感じます。高等部3年生のみ
 なさん、自分自身の未来を掴
 むために、そして学園の改革
 のために、力を発揮していつ
 てもください。

千里国際学園基本方針

千里国際学園では、自分の行
 動に責任を持ち、よい人間関係
 を維持していく能力が、生徒各
 自に備わっていると信じます。
 この考えにもとづいて、次のよ
 うな行動の目安がつけられてい
 ます。

< 5つのリスペクト >

自分を大切にする
 他人を大切にする
 学習を大切にする
 環境を大切にする
 リーダーシップを大切にする

話題 情報 連絡

千里国際学園図書館へようこそ

青山比呂乃
図書館

* 卒業生を送って

昨年度3月9日の高等部卒業生の在学中の日本語図書貸出冊数記録が出ました。

6年間在学した人が必然的に貸出冊数も多くなるわけですが、今まで9回卒業生を送り出してきた中で、今年が最多貸出冊数記録が更新されました。

在学中の日本語図書貸出冊数最多記録

1位	刺賀 繭理さん	1,043冊
2位	新井 隼子さん	445冊
3位	小西 陽子さん	257冊

なお、今までの最高は、98年3月卒の沼田君の376冊でしたので、今年はそれを上回る人が2人もいたことになります。中学ではたくさん借りていても、高校になるとあまり借りなくなってしまいう人も多い中、刺賀さんの場合は、中学で537冊、高校でも506冊と引き続き良く借りてくれました。もちろん皆、借りた本をすべて読んだわけではないでしょうけれど、彼女の場合、レポートのためなどの貸出より、自分が読みたくて読む本が圧倒的に多かったように思います。

この統計では、同じ本を借りなおしてもその度に1冊と数えています。途中編入や高校から入学の人たちでも、その間たくさん借りている人もいます。英語の方のコンピュータシステムではこうした記録を取れないため、「英語なら借りてるのに」という人が大勢いてもわからないので、大変偏ったものではあるのですが、一つの記録としてご報告しておきます。

* 図書館紹介

新入生、編入生の皆さん、その保護者の皆さん、千里国際学園図書館へようこそ！

図書館は、学校の玄関を入ったすぐ目の前にあります。現在蔵書は日本語約2万7千冊、英語約2万4千冊、合

わせて約5万1千冊です。ビデオ・CD・CDROMなどのニューメディア資料は、1020点あります。新聞は日刊紙が日4タイトル、英3タイトル、他に週刊などの物が5タイトル、雑誌も日英その他の言語を合わせて、130種くらいあります。新しく入った人も、前からいる人も、ぜひ上に書いた記録を塗り替えるくらい、たくさん使ってください！

入学式の日には蔵書点検中で、保護者の方には見ていただく事ができませんでしたが、図書館は学校の授業のある日はいつも、朝の8時から夕方4時30分までずっと開館していますので、機会がありましたらいつでも訪問してください。保護者の方も登録すれば、本を借りる事もできます。利用規則は生徒と同じで、生徒の利用に支障が出ない範囲に限られます。詳しくはお気軽に図書館までお問い合わせください。

* 蔵書点検報告

年1度、年度替りの時期に、図書館の全蔵書をチェックする蔵書点検をしていて、毎年生徒のボランティアに手伝ってもらっています。

今年は年度始めの4月1日から3日の3日間に日本語英語すべての図書の蔵書点検をしました。今回は最初の2日間に、6名の中学生と15名の高校生（現学年でGr 8: 2名、Gr 9: 4名、Gr11: 10名、Gr12: 5名）が手伝ってくれました。半日の人も丸2日間来てくれた人もいますが、こんなに大勢になったのは久しぶり、また、男子2名、女子19名で、男子が加わったのも、大変久しぶりです。ベテランの12年生も、はじめての人もわずかな休憩を取っただけで、とても良く働いてくれました。またこの他に今年は、上に書いた卒業生の刺賀さん、そしてOIS・SIS保護者の方がそれぞれ1名づつ、貴重な半日をボランティアに汗を流してくださいました。

今回は、ポータブルのデータ入力機がコンピュータのシステムが古くて使えない為、すべての日本語図書を書架から降ろしてきて、コンピュータのところに持ってきて入力しては、元に直す、という作業をしなければならず、2日間では入力出来ないのでは、と最初に覚悟していました。ところが、特に2日目に入って、皆大変精力的に働いてくれて、当初の予定の4時までをはるかに越えて5時過ぎまでひたすら入力してくれたおかげで、奇跡的に5万1千冊すべてのデータを入力し終えることができました。本当に大変助かりました。この場を借りて、もう一度お礼を言います。どうもありがとう。

また、その結果の昨年度分の行方不明の図書を現在最終チェック中です。次回のインターカルチャで報告する予定です。そして皆さんにお願いです。ふだん使っている教室などに、誰が借りたかわからない図書館のラベルがついた本が置いてあった場合は、誰かがなくしたと思って捜していたりすることもあります。ぜひすぐに図書館まで届けてください！

2001年度中 3学年旅行

2001年度の中学3年生は3月13日、14日の一泊二日の予定で伊勢・鳥羽方面へ学年（卒業）旅行に行ってきました。その時の様子を、本校を卒業していった椿舞綾さんに紹介してもらいます。舞綾さん、新しい学校でも頑張ってくださいね。みんなで応援しています。（田中憲三）

3月にSIS中等部を卒業した私は、卒業旅行として三重県の鳥羽へ行きました。この旅行の計画はずっと前からロングホームルーム等で学年のみんなで決めてきたもので、1日目は4つのグループに別れ旅館到着までそれぞれのプランの中で自由行動をし、2日目は全体でパルケエスパーニャというテーマパークへ行くというものでした。

1日目のプランには伊勢神宮でお参りをしてからおはらい町とおかげ横町で食べ歩きをするプラン、鳥羽水族館へ行ってからミキモト真珠島へ行くプ

ラン、おかげ横町で食べ歩きをするプラン、おはらい町で食べ歩きをするプランの4つがあり、私はその中からおかげ横町で食べ歩きをするプランを選びました。友達と一緒に食べた伊勢うどんや赤福はかなり美味しかったです！2日目に行ったパルケエスパーニャでも友達と一緒に色々なアトラクションに乗ったりしてとても楽しい時間を過ごしました。

夜の旅館でのリクリエーションでやったゲーム等もすごく楽しめたり、SISを離れる私にとって最後にものすごく良い思い出ができました。帰りの電車を降りてみんなと別れる時になっても引越すという実感が全くなかった



ので寂しいと思う事はなく、とにかく楽しい旅行でした。（椿舞綾）

学校でけがをしたら

弥永千穂
スクールナース

いろんなクラブ活動、休み時間のスポーツなどに熱くなっていませんか？保健室へケガをしてくる多くの生徒はクラブ活動中や休み時間にケガをしています。何かに夢中になるのはとってもいいことだけど、ケガをしないように気をつける事も大切。学生にケガはつきものですが、ある程度予防できることもあります。自分の爪は？アクセサリーは？準備体操は？ぜひ振り返ってみてください。そしてケガをした場合は、すぐにケアをすることが大切です。特に突き指やねんざはいったん活動をやめ、冷やす、動かさないのがポイント。ケガをしたらすぐに保健室へ来てくださいね。ケガがひどい、骨折かもしれない、痛みがおさまらない場合は病院などへ受診することも考えるかもしれません。そのときに覚えておいてほしいのが「日本体育・学校健康センターの災害給付制度」です。これは、学

校活動でケガをして、病院など（整形外科も含む）で治療を受けた場合、ほぼかかった費用が保護者の方へ払い戻されるシステムです。去年は約15名ほどの生徒がクラブ活動中のねんざや骨折などでこの災害給付をうけています。これにはいくつかの条件がありますが、学校の授業中・クラブ活動、学校にいる間、登下校中のけがであり、かかった医療費が保険なしで支払って5000円、3割負担で1500円以上であれば、ほとんどのケースで申請することができます。手続きとしては、ケガをした時の様子をスクールナースまでお話ししてもらい、お渡しする書類（かかった病院等で書いてもらう用紙）を提出してもらえば完了です。みなさんが、精一杯に学んで、遊んで、楽しい時間が過ごせるよう、そしてみなさんがおおきなケガをしないように祈っています。よい1年にしましょう。

<英語科> バイリンガリズム通信No.2

難波和彦・井藤真由美
英語科

Research on Bilingualism

変化する環境の中での、幼児の英語と日本語の同時習得

難波和彦

2002年2月号でお知らせしたように、今回から私がイギリスの大学で修士論文として書いた、「環境の変化にあわせた子供の2言語同時習得」の内容を紹介します。一人の子供のケーススタディで、ここでの結果をそのまま一般化できるわけではありませんが、子供が二つの言葉を習得していくときに、どのような要素に影響されるのかを見ることが、帰国生徒が言葉を保持したり、一般生徒が英語を身につけていく上で、何かの参考になればいいなと考えています。

自分の子供(T)が、生まれてから英語と日本語を話すのをMDにずっと録音し、日記に記録をしてきましたが、それだけでは、ただ大量のデータがあるだけなので、環境に大きな変化があった3つの段階でくぎって、彼の言葉にどんな変化があったかを観察しました。3つの段階というのは、次のようなものです。

段階 生まれてから3歳11ヶ月まで - 日本：家庭で言葉をおぼえ、使う。

段階 4歳から4歳4ヶ月まで - 日本：家庭に加えて幼稚園でも言葉をおぼえ、使う。

段階 4歳5ヶ月から5歳4ヶ月まで - イギリス：家庭に加えて小学校でも言葉をおぼえ、使う。

段階 は、日本で家庭の中で言語をいちから習得していく段階で、父親よりも、母親との接触が多くありました。この期間中、年に1度イギリスに帰ったり、イギリスから祖母が来たり、弟が誕生したり、といったできごとはいろいろあり、その時に小さな変化はやはり見られましたが、全体としては一つの段階としてとらえました。ビデオや絵本など英語の文字、音声を使ってつくられたものは家庭内には多くあり、母親が常に話しかけることを含めて、英語の

インプットは十分にありました。

段階 は、日本にいたことには変わりはありませんが、幼稚園に行き初めて、母親 - 自分の1対1の関係から、友達の中ですごす社会生活の第一歩を踏み出し、一日の大半を日本語を使って過ごすようになりました。偶然この時期に、母親が働きに出かけ、父親が家にいる時期が2週間あったこともTの言語に影響があったと思われます。

段階 は、イギリスに移り、日本で幼稚園にいたものが、現地では小学校の1年生に入学し、最も急激な変化のあった時期です。学校での言語環境が日本語から英語に変わったことは、もちろん決定的なちがいはありませんが、幼稚園で遊戯を中心にすごしていたものから、小学校で読み書きなどを習い始めたことも大きな変化になっています。日本語のビデオ、絵本などの数もあまりなく、日本語のインプットは、ほとんど父親との会話のみになりました。

このような3つの段階を軸にして、データを見ていくことによって、環境の変化がTの言語習得にどのような影響を与えたかを見ていきました。具体的には、次のような課題を設定して、リサーチを進めました。

A-言語的特徴 - Tの言葉そのものを発音、文法の面から分析して、次の課題について調べる。

1) どのような発音上の特長が、それぞれの段階で見られるか？

2) 二つの言語はお互いに影響を及ぼしているのか？

B-言語選択 - Tがどういうときに、どちらの言葉を選んでいるのかを観察して、次の課題について考える。

3) 環境の変化は、Tの言語選択に影響を与えているか？

4) Tは二つの言語を区別しているのか、混合しているのか？

C-言語入力 - インプットの果たす役割について考える。

5) 環境の変化に対して、言語はどの

ような役割をもって対応しているのか？

6) Tは、二言語の習得という負担に対して、どのような学習方策を用いたか？

それぞれの課題についての詳しい内容について、次回から紹介していきます。まず発音の面でどのような特徴がみられたかについて、書くつもりです。

授業、Bilingualismより

井藤真由美

冬学期に開講されているBilingualismの授業、今年は3回目となりました。この授業で扱っている内容は帰国生の人、バイカルチャーの人にはもちろん、この学園に関わる全ての方に興味を持ってもらえることを含んでいるのではないかと思いますので、授業の内容、今年のクラスの様子を簡単に紹介させていただきたいと思います。以前のインターカルチャー(65号)で、くわしく内容について紹介させていただいたことがあるので繰り返になる部分もあるかもしれませんが、できるだけ「今年の場合」に焦点を当てていきたいと思います。

今年は13人の人が受講しました。[英語、日本語]のバイリンガルの人10人と、[スペイン語、日本語、英語] [フランス語、日本語、英語] [日本語、英語、スウェーデン語(デンマーク語、ノルウェー語)]のトライリンガルの人3人がメンバーで、言語を使ったいろいろな実験をする際にはいろんなことばを耳にすることができました。また、文化的にも日本、アメリカ、オーストラリア、イギリス、ケニア、フランス、メキシコ、スウェーデン...、と多様でしたので私にとっても毎時間とても興味深い発見がありました。また、バイリンガルに育った過程も様々で、海外在住のあと「帰国」した人だけでなく、家庭内でバイリンガルの環境で育った人、日本に住みながらOISで小学校を過ごした

(次ページへ続く)

異動のお知らせ

< 新任 >

北口幸恵
数学科

初めまして。このたび4月から数学の非常勤講師としてお世話になることになりました北口幸恵です。私はこの春大学を卒業したばかりですが、この千里国際学園でデビューできることを、とても誇りに思います。教師になるのは私の小さい頃からの夢だったので、夢が叶ったと思うと毎日が楽しくて仕方ありません。実際、授業をして生徒達とコミュニケーションをとったりすると、さらにやる気が出てきます。でも、授業の組み立て方や勉強の面では、まだまだうまくいかず、毎時間反省が残りますが、このやる気と元気で乗り越えていこうと思います。数学科の先生方をはじめ、皆さんにはこれからたくさんお世話になると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。



岡部久代
書道

四月より、書写・書道の授業を担当させて頂く事になりました。数年前、オランダの郊外で書のデモンストレーションの手伝いをさせてもらった時、世界で、日本の文字を墨を含ませた筆で、紙に表現する書が興味・関心をもたれている事を感じました。国際色豊かで、自由な校風のもと、長い歴史の中で育まれた奥深い書芸術に触れ、難しさとそれ故に得る感動を味わい、世界にはばたく皆さんの感性を養うお手伝いができたらと思います。



< 退任 >

北野みゆき (数学科)
正野京子 (書道)

(前ページの続き)

人、一般生としてSISに入学して以来が んばって英語力を伸ばした人、それぞれの事情の違いを考えるのも意義のあることでした。

授業は大きく4つのセクションに分かれています。(1) Definition and Measurement (2) Linguistic Analysis (3) Bilingualism and Society (4) Bilingualism and Psychology のうち次

回は、(1)(2)について、その次に(3)(4)について、今年の授業での発見を報告させていただきたいと思います。なお、受講生の皆さんが各セクションについて書いたエッセイをまとめてPortfolioとしたものをまもなくLibraryに展示していただくつもりですので、そちらのほうもぜひご覧ください。

4月帰国生紹介

入学センター

学年	氏名	滞在国内
07	栗林 葵	アメリカ
07	井藤航太	アメリカ
07	小林鉱石	アメリカ
07	和田樹実	アメリカ
07	木内俊輔	アメリカ
07	土井智世	アメリカ
07	松本明子	アメリカ
07	原 優子	アメリカ
07	松原由佳	アメリカ
07	今川裕紀子	アメリカ
07	堀内健佑	イギリス
07	堀内康孝	イギリス
07	黒田克人	イギリス
07	島田克樹	タイ
07	中元美里	ドイツ
07	廣田佳代子	パキスタン
07	山見玲加	韓国
07	牧野 壱	台湾
07	永墓万友美	台湾
08	及川紗莉	タンザニア
08	一階こころ	マレーシア
10	笠井正季	アメリカ
10	加賀奈穂子	アメリカ
10	吉川まり	インドネシア
10	萩森知洋	インドネシア
10	立川奈央	インドネシア
10		ドイツ
10	村井仁美	タイ
10	吉田明弘	タイ
10	梅本友美	タイ
10	南川朱生	ドイツ
10	高木 陽	ドイツ
10	中島洋介	ポルトガル
10	辻 建三	中国
10	掛水玲雄奈	中国
11	宮本昌宏	アメリカ
11	齊藤 望	アメリカ
		南アフリカ共和国
12	片岡菜生	アメリカ
12	笠井はるか	アルゼンチン
12	村上 玲	中国

<数学科> 数学講読の授業から

馬場博史
数学科

冬学期に数学の教養科目「数学講読」をはじめて開講しました。この科目は、興味のある数学の話題を各自で決め、それについて易しい本を読んだり、インターネットで調べたりしてレポートするというものです。受講者は中3から高2まで8名。それぞれが数学に関するいろいろな面白いトピックを発表してくれました。

岡部怜子...「嘘つきのパラドックス」「超立方体」「だるまさんがころんだ-1 2 3 4 5 6 7 9」

安藤静花...「数あてゲーム」「7と1について」「世界の数学者たち-オイラーとネイピア」

洪絵梨...「メビウスの帯」「コッホ曲線」「の音楽」

松尾知洋...「ステッキで高さを測る」「数にはそれぞれ意味がある」「ピタゴラスってどんな人?」「数の昔」

三ツ橋敏史...「感ではなく計算上で」「自然の世界にも2次方程式がある」「数字パズルの解法」

瀬崎未佳子...「ピタゴラスの定理の証明」「パスカル」「和算」

竹上貴之...「100円ショップの代金と7・5・3」「0の話」「アルキメデス~王冠の話~」「無視できるほど小さい確率の話」

諸正義彦...「数と音楽」「数と色」「アインシュタイン」

このうちの一部を紹介します。

の音楽

洪 絵梨
高等部2年

参考文献：<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/haselic/pai.htm>

あの誰でも知ってる円周率()には音楽が隠されていたという記事を見

つけました。これは数年前に発見したことらしいですが、数学者の森毅さんや、「 の話」の野崎昭弘さんも「びっくりした」という大発見だったみたいです。どうやって見つけたかについて、発見に至った経過を話します。

実は、この発見者は初めて円周率の数字を知ったときから「この数字、『でたらめ』というにはなんか変や」と思っていたようなのです。

3 . 4 5 9 2 6 3 8 7
2 8 4 2

の付いた数字を見てください。なぜか、サンドイッチみたいに間に数字をはさんで2回ずつ繰り返す数字がいっぱいあるとおもいます。だから、「この数字、リズムあるなあ」とまでは小学校時分から思ってたみたいです。

ところがある日、1年生の「円」の単元の授業中、「円周率ってどこまでもでたらめにつづくんよ...」のような話をしている最中に、ふと、小学校の時ハーモニカの楽譜に番号がついていたのを思い出したそうです。ドが1、レが2...というヤツです。(図参照)

「この円周率の数字のでたらめそうのでたらめでないような変な数字の並びはひょっとして...」

さっそく、職員室に帰って音楽の先生に5線譜を借りて音階に直してみると、最初の「3」から始まってどんどんメロディーに、それも、耳に心地よいメロディーになっていったみたいです。しかも、多少音楽理論に心得のある人なら下の楽譜をみればわかるようにC F G G7 ...とこれまでの音楽の歴史が築きあげてきた一般的な和声進行にちゃんとのる曲になっていくのです！そして、小数以下78桁目から

113桁目のひとまとまりの数字の並びを音に直し終えたとき、その部分は、それまでの曲想をしっ

かり受け止め終末に向かういわゆる「サビ」になるのです。ギターを持ってられる人は

C Dm Fm G7 C E^bdim
F Fm C

とならしてみましょ。きっと、「こんなコード進行は俺にはできないなあ」と思うと思います。「この数字の並びは神の仕業(しわざ)に違いない」と、この発見者は思ったようです。

数にはそれぞれ意味がある

松尾知洋
高等部2年

書名「数学のしくみ」川久保勝夫著・日本実業出版社

古代ギリシャでは数が、それぞれの意味を持っています。例えば、「1」は創造を意味して、「2」は女性、「3」は男性を表します。だから2と3を足し合わせることによって「5」となり、これは結婚を意味します。こういった感じで古代ギリシャでは数字一つ一つに意味がありました。

有名なモノの一つに「完全数」というものがあります。完全数というのは、自然数nの約数のうち、n自身をのぞいた約数ぜんぶを足し合わせた数がちょうどnになる時にnを完全数といえます。その例として「6」がそうです。そして、この6という数にも意味があって、6とは神が万物を6日間で創造したという創世記の由来から来ています。そして、神の創造は完全でないといけないという所から、完全数と名づけられたそうです。本題に戻って、6の約数のうち6自身を除いたものは、1、2、3ですね？そして、これを全て足し合わせると...、なんと！「6」となります。そして、この他にも完全数となる数があります。それは、6の次は「28」その次は「496」そして次は「8128」そしてその次は、なななんと！！！！「3355

(次ページへ続く)



<理科> 総合理科の授業から

新見真人

理科

総合理科では毎週月、火、金曜日は科学・数学の本の輪読あるいはテレビの科学番組や科学関連映画の視聴を、また毎週木曜日は科学実験を中心に授業を展開しています。毎学期なるべく内容の違う10冊程度の本を皆で読んでいますが、その中で必ず読む本が『ご冗談でしょう、ファインマンさん』です。ここでは冬学期の生徒の読後感想文から1つを紹介いたします。

友井智香

高等部3年

私が幼少の頃読んだ「偉い人のお話」は第三者が書いたという事実も手伝ってか、名前と業績を変えると全て同じような話としか思えませんでした。いや、同じ話というのはこの場合不適切かもしれませんが、3タイプに分けられるはずですから。まずタイプAは幼少の頃からの経済的困難にも屈せず、その苦難を乗り越えて偉業を成し遂げ、日の目を見るタイプ、(エジソン、キュリー夫人系 - 物理系が多い)、タイプBは裕福ながらも恵まれない人々の気持ちを理解し始めるタイプ(シュバイツァー、仏陀系 - 医療、聖職者系が多い)、そしてタイプCは偉業を成し遂げながらも、いつまでたっても不運につかわれているタイプ(宮沢賢治、ピカソ系 - 美術、文芸系が多い。後は例外系として、エリザベス1

世、アガサ・クリスティー、太宰治、モーツァルトなどの芸術系、王侯貴族系が上げられますが、ほとんどがこの3つに当てはまると思うのは私だけではないはずだと思います。

同じ伝記でも、以上の正統派系伝記に対し、個性派系路線で行くのが芸能人の自伝です。最近では飯島愛さんの執筆された本を筆頭に、梅宮アンナさんや、藤原紀香さんなど、若手大御所芸能人の自伝執筆が目立ちました。これらは文学としては不純であると考えられがちで、実際私もそう思っている一人ですが、個性的な波乱万丈人生は正統派より、実際私達でも遭遇しそうな事件などがあると思います。

もちろん、私は正統派系を否定するつもりは全くありません。やはりイタケな中高生は飯島愛より、アインシュタインを読むべきです。しかし、個性的な生き方の存在を早くから知ることの大切さも否めません・・・というわけで、ファインマンさんの登場です。

リチャード・P ファインマン博士はMIT、プリンストン大学院卒業後、教授になりノーベル賞を受賞した、ミスター正統派ですが、自伝の「ご冗談でしょう、ファインマンさん」(原題: "Surely You're Joking, Mr. Feynman!")は科学者の伝記にもかかわらず、多くの芸能人本のように個性

派の傾向が見られました。そして、多くの個性派系のように毒々しくないという斬新さでは評価されるべきでしょう

私のお気に入りには子ども時代のエピソードです。ラジオを直す方法、イタリア語の学習方法など、数十年経った今でも実用性に満ちあふれたお話が、わかりやすく説明された物理の話と共に、簡単な文章で書かれています。残念ながら後半は自慢と難しい物理の話になっていますが、前半の子ども時代、学生時代のお話は一読の価値あり!です。ちなみにどうでもいいことですが、私が本屋だったら伝記コーナーにはおかず芸能人本コーナーに置きたい誘惑に駆られていたかもしれません...

(前ページの続き)

50336」なんです。そして、古代のギリシャの人は自力でここまで完全数を発見し、これらの完全数を神聖な物としました。ちなみに現在では、コンピューターの発展によって31個の完全数を見つけられています。

やはり、最初に僕が興味を持ったのは、数にはそれぞれに意味をもっているという事でした。そして、さっきも

書いていたけども、今ではコンピューターがあることによって、31個の完全数を見つけることができている。しかし、コンピューターのない時代で、あれだけの数を見つけるのはすごいと思いました。逆にいうと、現代にコンピューターがあるにもかかわらず、まだ、31個しか発見されてないという事もいえると思う。

GNS便り

徳嶺友香
高等部2年

ユーロ導入にともなう旧欧州通貨募
金

冬学期に急遽お願いした『ユーロ導入にともなう旧欧州通貨募金』にたくさんのご協力を頂きありがとうございました。早速日本ユニセフ協会に送らせて頂きました。千里国際学園の本領発揮というところでして、10カ国にも及ぶ各国のコインを集めることが出来ました。尚、欧州以外の通貨も集まりましたが、こちらの方は無期限に募金活動をされているということなの

で、GNSでの今後の募金方法等を懸案中です。

日本ユニセフ協会大阪支部チャリティー・バザー

こちらにも突然の呼びかけながらたくさんのお寄贈品が集まりました。このチャリティー・バザーは、5月の連休に難波OCATにて行われ、その売上げは全額アフガンの子供達の支援に使われるそうです。

アフガン大地震支援物資・カンパ協力お願い

アジアアフリカ環境協力センターが呼びかけている上記のお願いにGNSは賛同致しました。そこで、支援物資

の一つである毛布を集めることにしましたので、お願いします。

毛布：洗濯済みのものに限り
募集期日：5月末日

募集方法：千里国際学園の玄関に「GNSアフガン大地震支援」と明記のBOXに入れて下さい。GNS部員、もしくは顧問の田中守先生にご連絡下さい

追加お願い

アフガニスタンへの輸送費もGNS負担のため、輸送費としてカンパもお願いできれば大変ありがたいです。こちらのカンパはGNS部員もしくは田中守先生に手渡して下さい。

女子10kmマラソンで学園新記録

馬場博史

トライアスロン・ランニングクラブ顧問 数学科

武庫リバースポーツフェスタ

3月10日(日)武庫リバースポーツフェスタが宝塚市役所前武庫川河川敷公園で行なわれ、10kmマラソンの部で、中等部3年の吉田英美さんが43分35秒で本学園女子の新記録を達成し、高校生一般も含めて多数参加した中で5位に入賞しました。

<他の完走者>新見まゆ子(SIS8)、松田杏子(SIS11)、藤本卓(SIS11)、馬場博史(教員、40才以上男子4位38'07")

大阪陸上競技記録会

4月6日(土)堺市の新金岡公園陸上競技場で第1回大阪陸上競技記録会中学生の部が開催され、SISから5名が参加し好記録を残しました。

<記録>女子1500m吉田英美(SIS9)5'28"、奥村悠(SIS8)5'42"、新見まゆ子(SIS8)5'44"、男子3000m永田悠太(SIS8)10'47"、男子200m中島宏文(SIS8)

武庫川ロード記録会

4月14日(日)武庫川ロード記録会で中等部3年の吉田英美さんが5kmを21'49"の好記録でフィニッシュ。女子

の部1位になりました。

<他の完走者>谷畑美帆、溝口智顕、廣内茜、新見まゆ子(以上SIS8)、Christine Syrad(OIS9)、細谷花(SIS10)、長みさき(SIS11)、平井太佳子(教員)、馬場博史(教員)

吹田市市長杯陸上競技大会

4月21日(日)吹田市総合運動場で春季吹田市市長杯陸上競技大会が行なわれ、SIS/OISから11名が参加し、うち2名が入賞しました。

<入賞>中学女子1500m3位吉田英美



10km マラソンで表彰される吉田英美さん(SIS9)

(SIS9)5分28秒、中学男子200m3位古座岩拓馬(SIS9)27秒

<他の出場者>溝口智顕(1500m)永田悠太(3000m,1500m)中島宏文(100m)大川誠治(200m)新見まゆ子(800m)奥村悠(1500m)(以上SIS8)、安積広晃(100m,200m)朝倉理恵(200m)(以上SIS9)、Christine Syrad(800m)(OIS9)

千里国際学園のチームスポーツは千里国際学園中等部・高等部(SIS)と大阪インターナショナルスクール(OIS)の2校で1チームを編成しており、APAC(Asia Pacific Activities Conference)の公式試合や、近隣のインターナショナルスクール、日本の中学・高校との交流試合等に参加しています。

<APAC参加校>

北京インターナショナルスクール(中国)、上海アメリカンスクール(中国)、プレントインターナショナルスクール(フィリピン)、ソウルフォーリンスクール(韓国)、カナディアンアカデミー(神戸)、千里国際学園(大阪)

(注)「セイバース(The Sabers)」は千里国際学園スポーツチームの愛称です。

New Cafeteria Operator Begins

Bill Pearson
OIS Head

Upon our return from spring vacation we were greeted by our new Cafeteria operator Uokuni Sohonsa Company. They have added some extra decorations and color to give some warmth to the cafeteria, new staff and of course their menu of food items. While it is still too early to judge the quality and variety of the menu, initial reactions have been generally favorable. Comments such as, "the food looks the same, but tastes a lot better", and "at least it is served warmer", and "I am still waiting to see some of these western dishes they promised" have been heard from students.

An added bonus that we weren't expecting is the return of Mrs. Goshi. She was the cashier for the cafeteria two companies ago and was well liked by everyone. She is a happy and helpful person so be sure to say hello to her the next time you visit the school cafeteria.

Middle/High School Update

John Searle
OIS Middle and High School Principal

Over the Spring break the workmen were in school to put locks on all the middle and high school lockers, plus the lockers used by the fifth grade. The decision to do this was taken a few months ago by the Heads in response to a combination of factors - requests by parents, the difficulty in adequately monitoring the lockers at all times, and some cases of theft. The lock is a key barrel that fits discreetly into the door, without the need to significantly alter the design of the lockers. Students, therefore, now have a choice to use the locks, which require a key, or continue to leave their lockers unlocked. On Wednesday of this week the students were asked to let their homeroom teacher know if they wanted the key to the lock. On Thursday these students will have received a 'locker pledge form' which parents should have read. This form needed to be returned today, Friday, with a 1000-yen deposit for the keys to be issued on Monday. The 1000 yen, the cost of a replacement key and lock, will be returned to the student, at the end of the school year, when the key is returned to the advisor.

In many respects I hope that more students will continue to leave their lockers unlocked than locked, as it will signify that the atmosphere of trust still prevails. While we know that incidents of theft have happened, the occasions of students handing in wallets, money, train passes and other valuables still far outnumber any reports of items being stolen.

Safety in Front of the School

As the truck traffic related to the new development near the school increases, please remind your children to be extra careful crossing the streets. The truck drivers that I have observed seem to be driving slowly and cautiously through the school zone but even so it is difficult to stop such a big vehicle. Sometimes, I have observed students walking in the street or carelessly riding their bicycles. In order to avoid any unpleasant events, please take a moment to talk to your children about staying on the sidewalks and being careful. Thanks!

Quote: "Hide not your talents, They for use were made. What's a sundial in the shade?" by Benjamin Franklin

The Camps went well with everyone returning safely. Thank you to those parents who helped make paper cranes to take to Hiroshima. From having only 400 on the Thursday when I wrote in the last Educator, by the Tuesday before we left I had approximately 3,500 in my office. We put 2,000 on the statue of Sadako in Hiroshima and will donate the remaining cranes to Japan's World Cup Soccer Finals ceremony, where the plan is to release several million cranes, made by school students around Japan, from the roof of the stadium. It will be good to know that Osaka International School will be represented.

The last term of the school year has started well. Students have got down to their academic work quickly. The Student Council is beginning work on School Festival. The sports teams leave for Beijing next week for APAC finals. The seniors enter the final phase of their academic work with IB exams beginning in late May and then leave for New Zealand to work for Habitat for Humanity, as the culmination of their community service work. There is a lot happening as usual and we greatly appreciate your continued support of your child's development with us.

Elementary Update

Karin Caffin

OIS Elementary School Principal

Welcome back for the Spring Term. I trust that everyone has had a restful and enjoyable vacation. The teachers and I are looking forward to working with the students again, and often this is the term that we see many gains made with their work. We are expecting them all to do their best and work hard. During the year we ask students to reflect on their learning and discuss with teachers the progress they have made and to set goals for further learning. The students have kept samples of their work and written self-evaluations and will share those with parents at our Student-Led conferences on the 25th and 26th of April. Appointment forms will be sent home with the students this Friday.

Each year our students are involved in some sort of community service activity and during this next two weeks Mr. Elmer's fifth grade will be collecting items for the homeless men in Osaka. Items requested are socks, shavers, soap, towels, hats, gloves and 'Cup of noodle' soups and the items can be left in a box in the genkan. Mr. Elmer and the students will visit the homeless in Kamagasaki on the 23rd to present the items they have collected.

After the fifth graders have finished with their Kamagasaki project, they will begin collecting for the bumper recycle sale that they hold each year on the morning of the School Festival. If you are doing any spring cleaning and find treasures that can be recycled, please put them to one side until we ask that you bring items to the school.

During the vacation I read an interesting article about childhood stress. Stress, for adults and children is an unavoidable, normal and healthy part of life, and some stress is good for all of us. Children need to be skilled enough to see that there will always be challenges in life, and that they can learn to work through problems and think about their options. There can of course be situations when children feel overwhelmed by an issue or circumstance and be unable to deal with the problem. This type of stress can be destructive and children will need help from parents or professionals, including teachers and the school counselor. For you information, listed below are some of the sources of stress for children:

*New experiences; *Troubled family life; *Too many activities; *Fear; *Unpredictable outcomes; *Loss; *Needs or desires not met; *Unrealistic expectations, (from themselves or others); *Birth of a sibling; *Starting a new school or other school stresses; *Re-marriage of a parent; *Financial pressures; *Negative interpretation of events and circumstances.

Parents can help children develop strategies for dealing with difficult issues by giving them opportunities to make their own decisions and mistakes. If children are equipped to respond to

stress constructively, their transition into the changes of adolescence will be smoother. They will be more able to cope with the physical, emotional and relationship issues they will face as they journey through life.

Listed below are some of the ways to help children cope with stress.

* Recognize the symptoms of stress, (a sense of helplessness and pessimism, incessant crying, apathetic attitude to just about everything, deep depression, sleep disturbances, continual physical complaints).

* Recognize and normalize children's fears;

* Set a good example of stress management;

* Teach children to be aware of their stress and identify its source;

* Listen to children;

* Encourage loving, fun and supportive relationships;

* Teach them the skills of decision making;

* Teach them the skills of problem solving;

* Allow children to make choices for themselves;

* Encourage them to practice positive self-talk;

* Discuss necessary or upcoming changes;

* Focus on experiences rather than end results;

* Provide as much structure and routine as possible;

* Have realistic expectations for the child;

* Teach some simple relaxation techniques;

* Teach them essential time management skills;

* Ensure proper rest and nutrition.

Even in difficult circumstances, it's vital to work with children, helping them deal with stress, but without resolving their struggles for them. If we teach them to face the reality of their circumstances and work through their fears, we are giving them the skills they need, not just for the present, but for the future.

千里国際学園中等部・高等部(SIS)ではこの広報誌 "インターカルチャ"が発行されていますが、併設の大阪インターナショナルスクール(OIS)では毎週金曜日に"Educator"が発行されています。

ここでは"Educator"の記事の中で、OISの様子がよく分かるものやSISと関連する話題等をセレクトして掲載しています。

保護者会だより

第10回定例会報告

3月7日(木)13時30分より会議室にて

<大迫校長先生のお話>

本日が、2001年度最後の定例会という事で、先ず、皆様方の一年間のたくさんの時間を保護者会活動に使って頂いた事、改めてお礼申し上げます。今年は今まで以上に学校に対して、サポート的な活動を展開して下さったように思います。

色々な問題が起こった場合に私が支えにしている3つの要素があります。1つは子供達に対する想いです。だめになりそうになったり、しんどい時に子供達の顔が浮かんできます。2つ目は非常に熱心な先生方とのチームを作ってそのメンバーが私を支えてくれているという事、3つ目は保護者の皆様から支えていただいているという事を非常に強く感じております。

力の及ばない点を皆様方からご指摘いただく中で、ある信頼感を寄せていただきながらより良いものの為の意見やご指摘を受けるという事はより質の良い学校にする為に必要であると思っております。

12年生のペアレンツの方々にはこれで本当に最後ということになるので、心からの御礼を特に申し上げたいと思えます。

カフェテリアの業者の変更については、3月12日に生徒向けのプリントを配布します。業者の契約終了に際して、継続はなし、新業者の選定を数ヶ月かけて生徒の代表・教師・保護者(S I SもO I Sも同数)で行い、最終2つの業者をプレゼンにかけて試食会も行い、ほぼ100%の賛成を得たので、「魚国」に決定しました。

4月から変更を開始します。ご協力頂きました保護者の皆様、ありがとうございました。

A P A Cバンドに関してですが、80名程の生徒が各国から集まって合同練

習をして発表会を行いました。ホームステイのご協力、有難うございました。

<各委員会報告>

(インターナショナルフェア)

2月20日に反省会の食事会をしました。河野氏のご協力に感謝致します。

(広報)

2月28日に反省会をしました。あと、まだ5月号がありますので、それに関して打ち合わせをします。

(ネットワーク)

2月27日に新旧地域リーダーのミーティングを行いました。その後ネットワーク委員会の打ち合わせをしました。

(フォーラム)

2月14日にバレンタインケーキの講習会をしました。参加者32名の参加がありました。和やかに楽しく終了した後、打ち上げとして、楽しい時を過ごしながらの反省会をしました。学校のご協力、特に河野氏のご協力有難うございました。

(ボランティア)

2月28日、3月1日は音楽A P A Cの際の先生方へのランチサービス、3月2日は音楽A P A Cの際の先生方と生徒へのミートサパーサービスを行いました。

(執行部)

2月26日に執行部会を開き、反省会をしました。

<各学年委員会の1年間の報告と感想>

(7年生)

3回の親睦会を開きました。(5/9, 9/12, 2/25)この際、大迫校長先生、栗原先生にもお話をいただきました。また11月28日には教科説明会を開きました。7年生にはやはり手厚いお世話が必要であると感じました。子供達にも色々な問題もあり、初めてこの学校に入学された保護者の方の不安もありませんし、色々な情報が知りたいが、その場が無いので、そういう需要があったので、ある意味供給できたと思っています。

学年長は専任にした方がよいのではという意見もありました。7年生委員に関してはアドバイスを含めた引継ぎをした方がよいのではという意見も出しました。学年費に関しては、繰越ししてもよいのではないかという意見も出ています。また、各委員会の人数に対する見直しが必要ではないかという意見もありました。P T A活動がそれぞれの家庭の負担にならないようにして欲しいという意見もありました。

(8年生)

2月23日第3回懇親会にて新委員を選出しました。執行部も決定し引き継ぎも終了しました。

学年費に関して、来年の謝恩会に利用するなどはっきりとした目的があれば繰越しを認めたらどうかという意見が出ました。また、各学年の会計ノートを6年間継続利用してはどうかという意見も出ました。8年生の懇親会に関しては、学校内外で行う事が出来ませんでした。

出席者、欠席者のバランスが決まってしまうことが問題として残るように思います。インターナショナル

フェアのゲームに関して、ご協力有難うございました。学年長の専任化も良いのではないかと思います。

(9年生)

2学期に担任の先生を含めた懇親会を行いました。3月12日に卒業パーティーを予定しています。学年長はやってみてわかるのですが専任化した方が良いのではないかと思います。

学年費に関しては、余ったお金を卒業パーティで使います。

(10年生)

2月22日第3回懇親会を行いました。懇親会は年間に4月、10月、2月に先生を交えて和気あいあいと行いました。学年長に関しては必要ないのではないのでしょうか。学年費に関しては繰り越さなくても良いのではないのでしょうか。

(11年生)

2001年5月16日に第1回懇親会で結末を計ったはずだったのですが、実際はなかなか難しかったです。第2回懇親会をインターナショナルフェアの後に反省会、慰労会を兼ねて行いました。第3回懇親会は番外編として子供達が学年旅行にベトナムに行くので、ベトナム料理の食事会を行いました。予想外に大変良かったという感想を持ちました。

池田先生による進路説明会を推薦入試編として6月8日に1回目を一般入試編として11月4日に2回目を行いました。また2月28日に栗原先生に「青年期への子供達への関わりと理解」という講演をして頂きました。

学年長を務めての感想ですが、懇親会は出席されるメンバーは決まっているとはいうものの、出来るだけ集う場を設ける事は必要だと感じました。学年的に進路問題などもありますので・・・そのような事を考えると

学年長の専任化に関してですが、学年としての行事が多いので、学年長と各委員の両方は負担に感じた部分がありますので、専任化した方が良いと思います。

学年費に関しては繰越した方が良いのではないのでしょうか。あと、学年委

員の交通費や通信費などは必要経費にしても良いのではないかと感じました。

(12年生)

3月9日(土)卒業式です。前日12年生委員は準備をします。当日は11年生の委員の方、お手伝い宜しくお願い致します。

春、秋学期に各1回懇親会を行いました。学年長専任化の件及び学年費の件はまだ話し合えていません。

学年長専任化および学年費に関して

本年度が終了した時点での意見として、次年度の新メンバーに引き続き考慮していただく。

新旧委員顔合わせ

および

ミーティング

2002年4月18日(木)13:00より
会議室にて

2002年度

保護者会総会

2002年5月17日(金)13:45より
シアターにて

1年間を振り返って。。。

<各委員会委員長より>

『執行部』

2001年度の方針として、何をするかをしっかりと考えて自分たちの活動の仕方をみんなで考えて、無理をせず、出来ることをやっていこうということでスタートした1年間でした。各委員会活動も委員長を中心に活動方針を決め、よくまとまった活動が行われていたと思います。日々の活動の中で、委員の皆さんが笑顔で取り組んでおられたことが印象的でした。各委員の方たちのおかげで1年間を終えることが出来ました。ご協力くださった保護者の皆様、先生方、学校関係者の方たち有難うございました。そして委員の皆様、1年間に難うございました。

執行部委員長
楠本恵美子

『ボランティア委員会』

ボランティア委員会の主な仕事は、学校行事の中で、ティーサービス、ランチ、スナックサービス等の要請を受けて活動しています。今年のボランティア委員は10名。それぞれができる範囲で参加、協力して各行事を順調に終える事ができました。経験豊かなお母さんの集まり、仕事は手際よく進められ、便利なこと、おいしいこと等教え合いながら、なごやかに（賑やかにかしら？）あふれる元気パワーで毎回とても楽しく活動できました。行事によって、朝から長時間に渡ってあったり、夜だったり、また3日間連続だったり活動時間は様々ですが、都合のつく限り快く参加して下さいました。私自身は家が近く、動きやすかったのですが、遠くからの方は、やはり大変だったと思います。お互いを思いやる気持ちを大切に、いつも笑顔が絶えなかった事が一番印象に残っています。いろんな面で感動の1年でした。最後になりましたが、スナック等のご寄付、行事でお手伝い下さった方々に、心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

ボランティア委員会委員長
末吉隆子

『インターナショナルフェア委員会』

1年前、フェア委員をお引き受けした時は、不安で一杯でしたが、良きメンバーに恵まれ、保護者の皆様ご協力の元、無事任期を終える事ができました。1年間ありがとうございました。

インターナショナルフェア委員会委員長
黒田祐子

『フォーラム委員会』

1年を振り返り、今改めて皆と同じ目標に向かって力を合わせる事ができた事の喜びを感じ、皆様に支えられて無事活動を終える事が出来た事、活動を通じて素敵な方々と出会えた事に感謝しています。ありがとうございました。

フォーラム委員会委員長
松岡信子

『ネットワーク委員会』

1年前、良く解らないままネットワーク委員長をお引き受けし、さてどうしたものかと思いつつとても頼もしく、温かいメンバーに恵まれ楽しく委員会活動をさせていただきました。例えばネットワーク委員会そのものもよくわからないままスタートしたのですが、子供達、保護者の方々の少しでもお役に立てればという気持ちから、慣れないパソコンで名簿作りに励み、各地域リーダーの方々から貴重なアドバイスを頂き、微力ながらこの学校ならではの学年に関係なく、また地域によっては卒業生の保護者の方も地域ミーティングに加わり、交流を深めていくお手伝いができたのではないかな思っております。私たちが思っていた以上に各地域が活発に活動を行っていたことなどはとてもうれしく思いました。学年を超えて色々な方々に出会えるSISのネットワークを通じ、生徒、保護者、学校がより良い関係を保てたら素晴らしいことだとは思いませんか？いたらぬ点は多々あったかとは思いますが、皆様のご協力のおかげで本当に楽しく1年間活動することができまし

たこと、ネットワーク委員一同感謝いたします。ありがとうございました。

ネットワーク委員会委員長
依藤ひとみ

『広報委員会』

広報委員会の担当であります、この『インタ-カルチャ』も5月号を持ちまして、1年間の最後の発行となります。毎年、各広報委員会の方々の趣向を凝らした保護者会のページ、今年よりSISを知って頂く事をモットーに『ズームインSIS』と題しまして学校施設取材し、担当の先生方にインタビューさせて頂きましたが、お楽しみ頂けましたでしょうか？毎号突然の取材依頼にも御快諾頂きました先生方、本当にお忙しい中ありがとうございました。先生方の学校に対する真摯な取り組みに触れるたび、感謝と、また改めて先生方それぞれがこのSISを愛していらっしやる事がひしひしと伝わってまいりました。その事を読者の皆様に少しでもお伝えする事ができたならば、私達広報委員会の役割が果たせたのではないかと、手前味噌ながら思っております。その事が学校と保護者間の信頼の掛け橋になるのではないかと思います。子供達同様、私達保護者一人一人がSISを好きになる事、それに尽きると思います。いろんな方が学校行事に関わる事から始まるのです。今年度の方々もぜひ、楽しんで学校行事に関わってください。私達広報委員も仕事や家庭の事情、体調、遠方等、各々いろんな事情を抱えたメンバーばかりでしたが、それぞれに得意分野のエキスパートであった事、そのため毎回全員が集合できなくても、パソコンのメール等で連絡し合い、連携プレーで1年をこなす事ができました。メンバーの皆さん、1年間御苦勞様でした。そして、ありがとうございました。

広報委員会委員長
小池由美子

ZOOM IN SIS

進路指導室

Zoom In SISの締めくくりは、進路情報室に池田大介先生をお訪ねしました。入学したての7年生の保護者のみなさんには、進路の問題はずいぶん先の話かもしれませんが、SISでの時間は飛ぶように過ぎていきます。ぜひ、ご一読ください。

進路情報室は3階の会議室の手前にあります。1999年に進路部から改称され、池田先生が室長に就任されました（『インターカルチャ』1999年5月号参照）。高校の保護者は学年で進路説明会を開いていただいたりしますが、いざ個別に相談に伺おうと思うと、案外敷居が高いものです。

進路情報室は、基本的に月曜から金曜までの8:45~16:45に入室・資料閲覧することができます。資料は室内で閲覧し、コピーが必要な場合は担当教員に連絡の上、図書館のコピー機を利用することになっています。保護者の方々は、秘書室の小野寺さんに生徒を通して、あるいは電話で予約を取れば、池田先生との個人面談をお願いすることもできます。

でも、池田先生は「とっつきにくい先生」では？という印象を持たれる保護者のために、先生のプロフィールを紹介します。あの南方熊楠生誕の地、和歌山県田辺の出身で、ご実家は曹洞宗のお寺です。幼少から早寝・早起き、読経、小学校では何年もお寺に預けられたり、と未来の僧として「修行」されましたが、なぜか大学は慶応義塾大学法学部法律学科に。その後、国内外で教員をされた後、SISにいらっしやいました。趣味は年間数百冊という読書、そしてお嬢さんと一緒に行く映画。体力作りのために始めた陸上競技にはまって、高校の400Mハードルで作った県記録がいまだに破られていないなどなど。やっぱり一味違いますか？

広報(K): まず、進路情報室のお仕事からうかがってよろしいですか？

池田(I): 第一の仕事は生徒との面談です。授業と会議以外の時間は、ほ

とんど生徒と面談しています。もう少しすると、血相を変えた12年生が部屋の前に列をなしますね。ぼくははっきりと物を言う人間ですが、進路の相談の場合は、必ず「~だと思ふよ」と最後につけることにしています。無責任なことは言えませんから、安請け合いはしません。あまり知られていませんが、大学の入試担当者に千里国際学園のことを理解してもらうことも大切な仕事です。たとえば、SISでは一年にいくつもクラブ活動ができるのですが、実態を知らない「持続性に欠ける」とマイナスに評価されてしまいがちです。そうではなくて、多くの出会いをもった豊かなクラブ活動をしているということ、こちらから伝えていかなくてはならないのです。対外的な切りこみ隊長とでもいいますか、生徒と外部との「壁」の役割ですね。大学の入試システムが急速に多様化していますが、大学自身が何を求めているかわかっていないことが多く、生徒がそれに振り回されてしまう。ぼくにとっては、その学年のその子、という大切な一人一人の生徒ですから、弁護士のようには守ってやらなくてはなりません。ですから、問題だと思ふことがあれば、大学あてに抗議文を出しています。もっとも、国立大学からは返事が来たことはありません。

K: 面談に来ない生徒はどうケアするのでしょうか。

I: どうしてもぼくと面談するのが苦手という生徒もいると思います。SISの良いところは、どの先生でも相談できるところで、ぼくよりも相談しやすい先生がいる場合には、担任でも、クラブの顧問でも、過去の担任でも、その先生と相談していれば、ぼくのほうで先生方と有機的に連絡を取りあうようにしています。面談に来ない生徒について担任にチェックすると、担任のほうでフォローしているという場合が多いです。食べ物と同じで、どうしても和食でなくてはならないということではなくて、洋食でも中華でもいいわけです。

K: 進みたい方向がわかって相談に来る生徒には、いろいろと対処できると思いますが、進みたい方向が決まっていない生徒の場合、どのように指導されるのですか？

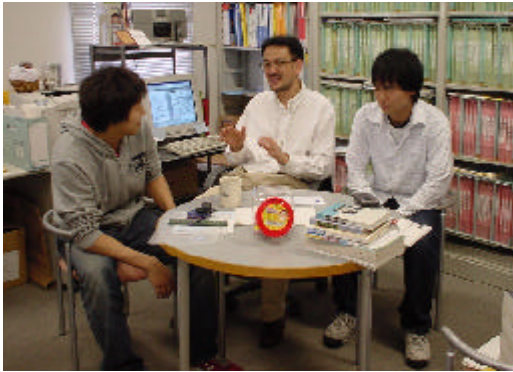
I: 実は、決まっていなくて相談に来る生徒のほうが多いですね。そういう場合は、こちらからというよりも、生徒にしゃべってもらいます。また、教師の立場で話すと言教のようになりませんから、卒業生に来てもらって相談にのってもらうことも多いです。同じようなケースで悩んだ先輩の話という材料を提供して、そこから本人に考えてもらいます。でも最後の判断は本人に残します。面談に行く先生から方向を押しつけられるのでは、という恐れがあるようですけど、たいていは人生論のような話からはいるんです。ただ、男子生徒はそんな話も聞いてくれますが、女子生徒はそんな「おじさん」くさい話ではなくて、もっと具体的なことを求めることが多いですね。

K: だいたい、いつ頃から面談して、いつ頃進路は決まるものなのでしょう？

I: 面談に来た一番早い例では7年生ですが、たいていは高校になってからです。誰かと同じようにしていれば安心というのは、生徒の保守化ですね。決定については、他校に比べてSISの場合は最後まで揺れ動く率が高いです。10年、11年、12年と、約6割くらいが毎年進路の希望を変えています。約6割以上は12年になって最終決定をしています。あまり早く結論を出すのも問題ですね。抽出論になってしまうことがあります。こちらとしては、本人のプライドを傷つけないようにしながら、あやふやな部分、穴のあいているところがないかをチェックして、問題点を自分でみつけられるように手伝います。

K: SISの生徒の進路の傾向には変化がありますか？

I: 今年の大学合格実績はこの号に載せていますが、ピンポイント受験になってきています。総合系、国際系ではなくて明確な専攻にしばらく、数多く受験しない。一大学しか受験しない生徒も



いました。入学後にどのような資格が取れるか、大学院進学まで視野に入れて、受験する大学を吟味しています。逆に就職を考えて大学を選ぶ生徒は減っています。また、浪人しても国立をもう一度めざす生徒が増えています。合格者の実数が去年よりも少なくなっているのは、受験数そのものが絞り込まれているせいです。あと、女子生徒の理系受験も増えていますね。

K: 進路の相談はとても大変な仕事だと思いますが、いかがでしょう？

I: しんどいですが、楽しいですね。ぼくはもう寺を継ぐことはないでしょうが、その分、求められたら与えたい、という気持ちでやっています。入試が終わって、「全部終わりました」という短い一言でも生徒が伝えにきてくれると、報われたという気がしますね。生徒には、そうした最後の締めくくりのできる人間になってもらいたいです。卒業してからも訪ねてきてくれますが、女子生徒の場合、なんていうんですか、大人になってしまっ、どう扱っていいかわからなくなります。あと、卒業後も一年間だけは、進路情報室のほうでケアをすることにしています。その後は、冷たいようですが、きりがないので。進路の相談はこれからも一対一の関係を大切にしていきたいと思っています。

K: こうして先生と「面談」できた取材班以外の保護者や、なかなかアポイントメントを取れないでいる生徒に、先生からメッセージはありませんか？

I: まず生徒には、「池田は噂ほどこわくない」。でも礼儀にはうるさいです。規則ではなくても、自分としてはこうあってほしくないということは、どんどん言います。保護者のみなさんに対しては、ぼくは、人生の先輩とし

てのお父さん、お母さんと面談するのは好きです。時には、ぼくのほうが子育ての相談にのってもらったりもしています。ご両親そろってこられると、生徒の家庭環境がもっとよくわかります。お母さん一人という場合が多いですが、ぜひお父さんに来ていただきたい。直接会うのはちょっとという場合は、電話でもお話しします。あと、教師に信頼をおいてください。SISの教師と生徒の関係はとても近いのですが、教師に対しては畏怖というものが残っていてもいいと思っています。生徒の前で教師の批判をするのは、よい影響を与えません。

K: SISの先生がたは、みなさんととても熱心に子どもたちに接していただけます。こうやって、一人一人に手作りの進路相談をしてくださることも、SISならではのではないかと思えます。予定の時間の倍近くお話いただいて、どうもありがとうございました。

<取材班より>

・噂通りの先生だったらという緊張感を抱いて取材に臨みました。けれど、昨年卒業した娘は池田先生と仲良し(?)で、先生のことはいろいろ聞いておりましたので、たくさんお話を伺えるだろうとも考えていました。先生のお話から子供たちひとりひとりに合った面談がなされているのが分かりました。子も親も進路情報室を訪れることで得るものは大きいと感じました。親の面談をせずに上の娘は卒業させてしまいましたが、下の娘の時は両親で面談の申し込みをしようかなと思っています。(Y.A.)

・この春9年生になった娘を持つ母親として、初めて訪れたお部屋でした。進路指導室という名前(?)を聞く限りでは、何やらとても難しいような、緊張しないといけないような、遠い存在のような気持ちで伺いました。でも、お部屋に入ってまず一番に目に入ったのは、机の上に置かれていた本と同じように当然のような存在のキャンディでした。それは、池田先生の生徒に対するお心遣いだということが、お話を伺ううちにわかりました。子供を持つ親としては、自分自身も経験してきたことではありますが、受験とい

う過酷な試練を経験する子供に対して、一体どれだけのことをしてやれるのか不安を感じていました。でもそんな不安を親が感じることはないのだと、池田先生のお話を伺ううちに分かってきました。子供はたくさん悩んで、自分の人生をどんな風に歩いて行くのかを決めていくのだと思いました。そして、そんな風に悩みながら自分の進む道を少しずつでも切り開いていく子供たちには、進路指導室があるのだと思いました。池田先生が勧めて下さったキャンディの味は、甘くてとても美味しかったです。いろんな悩みや問題を抱えてこのお部屋に来る子供たちは、この美味しいキャンディと池田先生の楽しい(時には厳しい)お話を聞いて、自分の道を少しずつ進めていくのでしょうか。そう思うと本当に心和みました。お忙しいお時間を延長して割いて下さって、本当に感謝しております。ありがとうございました。

(T.M.)

・棚にぎっしり詰まった資料と机の上のキャンディ・ボックスのミスマッチ。この進路指導室の光景は、判断は緻密なデータに基づいて行うべきだという池田先生の姿勢と、ただ人生は数字なんかでは決められないほど奥深いものなのだという信念の双方を現わした構図なのかなと感じました。この部屋で語られてきた子どもたちの夢と悩みとをいっぱい吸い込んだキャンディの味を、みなさんもぜひ試しにきてください。(C.O.)

5～6月行事予定

月	日	曜	
5	10	金	高等部ソフトボール(5/11まで)
	17	金	中等部ソフトボール(5/18まで)
	18	土	高等部バドミントン・卓球
	16	木	春季リサイタル
	25	土	学園祭
6	03	月	教員研修日休校
	07	金	スポーツ表彰式(6/11から変更)
	11	火	高等部春季コンサート(6/7から変更)
	14	金	OIS高等部卒業式
	20	木	中等部春季コンサート

月刊「海外子女教育」に連載

財団法人海外子女教育振興財団発行の月刊誌「海外子女教育」の「帰国子女教育の最先端」という特集で、4月号から6月号までの3回、本校が連載されています。

第11回学園祭

5月25日(土)

テーマ「映画」

編集後記

今年度もSIS広報センターは私と井藤先生の2人で頑張ります。よろしくお祈りします。前年度の保護者会広報委員会の方々のお仕事はこの号で最後になります。「ズームインSIS」は内部の者でも参考になるいい企画でした。ありがとうございました。(馬場博史)

ベトナムには行ったことがありませんが、ベトナム戦争のこと、ベトナム料理、最近人気の観光スポットのこと...、いろんなイメージが頭に浮かびます。学年旅行でベトナムに行った皆さんは数日の間にそんなベトナムのあらゆる部分を凝縮して吸収してきたようですね。そして旅行そのものより、時間をかけて検討し、悩みながら完成させた過程のほうにより意味があったという角田瞳さんのことばが印象的です。(井藤真由美)

インターカルチャーへの記事・ご感想等は、e-mailでinterculture@senri.ed.jpまでお送り下さい。インターカルチャーはバックナンバーも含めて本学園ホームページwww.senri.ed.jp/intercultureでもご覧いただけます。また学園ホームページにつきましてのご意見ご感想などは、webmaster-j@senri.ed.jpまでお願いします。

編集：SIS広報センター 保護者会だより記事：保護者会広報委員 カット：イラストレーションクラブ生徒

Senri International School Foundation (SISF)

Senri International School (SIS)

Osaka International School (OIS)

4-4-16, Onohara-Nishi, Minoh-shi, Osaka 562-0032, JAPAN

TEL 0727-27-5050 FAX 0727-27-5055

学校法人千里国際学園(SISF)

千里国際学園中等部・高等部(SIS)

大阪インターナショナルスクール(OIS)

〒562-0032 大阪府箕面市小野原西4丁目4番16号

電話0727-27-5050 FAX 0727-27-5055

年間発行予定と主な内容 ()は発行時期

春学期 5月号(上旬) 卒業式、入学式、大学等合格状況

6月号(中旬) 学園祭、スポーツ表彰式

秋学期 10月号(上旬) 夏の宿泊行事、夏の諸活動報告

11月号(中旬) 運動会、玄関コンサート

冬学期 2月号(上旬) オールスクールプロダクション、模擬国連

3月号(中旬) 入試結果、卒業生へ贈る言葉

他に留学報告、スポーツ結果、各種表彰、授業紹介、生徒会・クラブ活動等

千里国際学園は、帰国生徒を中心に一般日本人生徒や日本の教育を希望する外国人生徒も受け入れて日本の普通教育を行う千里国際学園中等部・高等部 Senri International School (SIS) と4歳から18歳までの主に外国人児童生徒を対象とする大阪インターナショナルスクール Osaka International School (OIS) とを、同一敷地 校舎内に併設しています。

両校は一部の授業や学校行事・クラブ活動・生徒会活動等を合同で行っています。チームスポーツはこの2校で1チームを編成しており、APAC(Asia Pacific Activities Conference)の公式試合や、近隣のインターナショナルスクール、日本の中学・高校との交流試合等に参加しています。このため、校内ではインターナショナルスクールの学校系統に合わせて、6年生～8年生(日本の小学6年生～中学3年生春学期)をミドルスクール(MS)、9年生～12年生(日本の中学3年生秋学期～高校3年生)をハイスクール(HS)と呼んでいます。